

CA Application Performance Management

用語集

リリース 9.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントは、以下の CA Technologies 製品および機能に関するものです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA Application Performance Management ChangeDetector (CA APM ChangeDetector)
- CA Application Performance Management ErrorDetector (CA APM ErrorDetector)
- CA Application Performance Management for CA Database Performance (CA APM for CA Database Performance)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® (CA APM for CA SiteMinder®)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® Application Server Agents (CA APM for CA SiteMinder® ASA)
- CA Application Performance Management for IBM CICS Transaction Gateway (CA APM for IBM CICS Transaction Gateway)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Application Server (CA APM for IBM WebSphere Application Server)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Distributed Environments (CA APM for IBM WebSphere Distributed Environments)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere MQ (CA APM for IBM WebSphere MQ)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Portal (CA APM for IBM WebSphere Portal)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Process Server (CA APM for IBM WebSphere Process Server)
- CA Application Performance Management for IBM z/OS® (CA APM for IBM z/OS®)
- CA Application Performance Management for Microsoft SharePoint (CA APM for Microsoft SharePoint)
- CA Application Performance Management for Oracle Databases (CA APM for Oracle Databases)

- CA Application Performance Management for Oracle Service Bus (CA APM for Oracle Service Bus)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Portal (CA APM for Oracle WebLogic Portal)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Server (CA APM for Oracle WebLogic Server)
- CA Application Performance Management for SOA (CA APM for SOA)
- CA Application Performance Management for TIBCO BusinessWorks (CA APM for TIBCO BusinessWorks)
- CA Application Performance Management for TIBCO Enterprise Message Service (CA APM for TIBCO Enterprise Message Service)
- CA Application Performance Management for Web Servers (CA APM for Web Servers)
- CA Application Performance Management for webMethods Broker (CA APM for webMethods Broker)
- CA Application Performance Management for webMethods Integration Server (CA APM for webMethods Integration Server)
- CA Application Performance Management Integration for CA CMDB (CA APM Integration for CA CMDB)
- CA Application Performance Management Integration for CA NSM (CA APM Integration for CA NSM)
- CA Application Performance Management LeakHunter (CA APM LeakHunter)
- CA Application Performance Management Transaction Generator (CA APM TG)
- CA Cross-Enterprise Application Performance Management
- CA Customer Experience Manager (CA CEM)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA eHealth® Performance Manager (CA eHealth)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS®
- CA Introscope®
- CA SiteMinder®
- CA Spectrum® Infrastructure Manager (CA Spectrum)

- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

用語集

9

用語集

100 万機会あたりの障害数 (DPMO)

100 万機会あたりの障害数 (DPMO) は、サービスとサービスの比較に使用されます。DPMO を使用すると、幅広いさまざまな機会コストとサービスを公平に比較することが可能になります。

CA CEM の計算： $DPMO = (\text{合計障害数} / \text{合計機会数}) * 1,000,000$

次も参照：「[ビジネス サービス](#) (P. 59)」、「[障害](#) (P. 41)」、「[機会](#) (P. 35)」

1 ユーザ 1 分あたりのインシデント コスト

「[インシデント コスト](#) (P. 29)」を参照してください。

Action Message Format (AMF)

Action Message Format (AMF) は、HTTP 要求および応答トランザクションで Adobe Flex アプリケーションデータを渡すのに使用されるバイナリ形式です。

次も参照：「[Flex パラメータ](#) (P. 15)」

Apache Ant

Apache Ant は、ソフトウェア ビルドプロセスを自動化するソフトウェア ツールです。これは *make* に似ていますが、Java 言語で書かれ、Java プラットフォームが必要で、Java プロジェクトを作成するのに最も適しています。Ant と *make* の顕著な直接的な違いは、Ant は XML を使用してビルドプロセスとその依存性を記述するのに対し、*make* は Makefile 形式を使用することです。XML ファイルはデフォルトでは、*build.xml* という名前になります。

Ant は Apache プロジェクトの 1 つです。これはオープンソース ソフトウェアであり、Apache ソフトウェア ライセンス契約のもとでリリースされます。

API

アプリケーションプログラミング インターフェース

次も参照：「[SDK](#) (P. 24)」

APM

「[Application Performance Management \(APM\)](#) (P. 10)」を参照してください。

APM ステータス コンソール

APM ステータス コンソールは、Enterprise Manager の実行時の稼働状況に関する問題を監視して対処するための Introscope Workstation ユーザーインターフェースです。CA APM 管理者は、スタンドアロンまたはクラスタ化された Enterprise Manager の重要なステータスおよびイベントを表示できます。この機能があることによって、購入後すぐに監視を始められます。この機能がないと、管理者が Enterprise Manager サポートビリティメトリックにアラートを構成する必要があります。

APM データベース

APM データベースには、ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションのデータが含まれます。このデータは、Introscope Investigator アプリケーション問題切り分けマップ内で使用され、CA CEM のインシデントと障害にも使用されます。CA CEM 関連の構成データもすべてこのデータベースに保存されます。

次も参照：「[ベースラインデータベース \(P. 64\)](#)」、「[SmartStor データベース \(P. 25\)](#)」、「[トランザクションイベントデータベース \(P. 52\)](#)」

APM トランザクション時間

「[CEM トランザクション時間 \(P. 12\)](#)」を参照してください。

Application Performance Management (APM)

CA Application Performance Management (APM) 製品。CA APM は、エンドユーザーエクスペリエンスを理解し、サービス レベルアグリーメント (SLA) を測定することを可能にする、効率の高い包括的なアプリケーションパフォーマンス管理戦略を提供します。すべてのトランザクションをエンドツーエンドのインフラストラクチャにマップし、完全に統合されたソリューションを使用してインシデントの問題切り分けと根本原因診断を行うことを可能にします。

次も参照：「[Introscope \(P. 16\)](#)」、「[CA CEM \(P. 11\)](#)」

ASP.NET

ASP.NET は Microsoft が提供する一連の Web アプリケーション開発テクノロジーです。プログラマは ASP.NET を使用して、動的な Web サイト、Web アプリケーション、および XML Web サービスを構築できます。ASP.NET は Microsoft .NET プラットフォームの一部で、Microsoft Active Server Pages (ASP) テクノロジーを引き継いでいます。

次も参照：「[.NET フレームワーク \(P. 22\)](#)」

AutoProbe

Introscope AutoProbe は、起動時にアプリケーションヘブローブを動的に追加することにより、アプリケーションのインストールメンテナープロセスを自動化します。*Introscope* プローブは、*Introscope* メトリックのソースデータを提供します。

次も参照：「[インストールメント](#) (P. 30)」、[「ProbeBuilder](#) (P. 23)」

BizTrxHttpTracer

BizTrxHttpTracer は、CA CEM ビジネス トランザクション定義 (ルールセット) を使用して トランザクションを識別および監視するエージェント拡張機能です。*BizTrxHttpTracer* が *Introscope Transaction Tracer* 機能を有効にすると、Investigator 内にメトリックが CA CEM の名前と共に表示されます。*BizTrxHttpTracer* は、トランザクション追跡を開始するために、現在のトランザクションおよび追跡情報を必要とします。

BizTrxHttpTracer は *CEMTracer* 機能に置き換わるものです。

次も参照：「[ビジネス トランザクション](#) (P. 60)」、[「CEMTracer](#) (P. 12)」、[「Transaction Tracer](#) (P. 26)」、[「ルールセット](#) (P. 71)」

Blame

Introscope Blame はアプリケーションをインストールするために使用される技術です。*Introscope* は、アプリケーションのフロントエンドおよびバックエンドをマーキングすること、および問題調査のメトリックを提供することにより、コンポーネントのインタラクションおよびリソース使用状況を追跡します。

次も参照：「[バックエンド](#) (P. 57)」、[「フロントエンド](#) (P. 63)」、[「インストールメント](#) (P. 30)」、[「Transaction Tracer](#) (P. 26)」

C#

C# (C シャープと読みます) はオブジェクト指向のプログラミング言語で、.NET Framework と共に使用するために Microsoft によって開発されました。

次も参照：「[共通語ランタイム \(CLR\)](#) (P. 36)」、[「.NET エージェント](#) (P. 21)」、[「.NET Framework](#) (P. 22)」

CA CEM

CA CEM は、データセンターに関する問題の原因を特定するために、顧客 トランザクションを監視する製品です。CA CEM は顧客 トランザクションのパフォーマンスと品質を測定して、障害や不一致を特定し、顧客およびビジネスへの影響を数値化します。

次も参照：「[Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」、[「TIM \(トランザクションインパクト監視\)](#) (P. 25)」

CDV

「[クロスクラスタ データ ビューア \(CDV\)](#) (P. 37)」を参照してください。

CEM

「[CA CEM](#) (P. 11)」を参照してください。

CEMDefinitionHandler

CEMDefinitionHandler は、リリース 8.2 の CA Introscope® EM 拡張で、CA CEM ビジネス トランザクション定義を受信および解析し、解析した定義を登録済みのエージェントに渡します。

CEMDefinitionHandler は、トランザクション追跡要求を (リリース 8.2 の) エージェントに送信し、エージェントからトランザクション追跡データを受信したら、そのデータを CA CEM に渡します。

次も参照: 「[EM 拡張](#) (P. 13)」、 「[Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」

CEMTracer

CEMTracer は、リリース 8.2 の CA Introscope® エージェント拡張です。この拡張は、リリース 9.0 で *BizTrxHttpTracer* に置き換えられました。

次も参照: 「[BizTrxHttpTracer](#) (P. 11)」、 「[ビジネス トランザクション](#) (P. 60)」、 「[ルールセット](#) (P. 71)」、 「[Transaction Tracer](#) (P. 26)」

CEM トランザクション時間

*CEM トランザクション時間*は、最初のリクエスト パケットから最後の応答パケットまでのトランザクションの経過時間の合計で、TIM によって監視されます。

次も参照: 「[トランザクション時間 SLA](#) (P. 53)」

CMDB

CA *CMDB* (Configuration Management Database) は、IT インフラストラクチャ内の異種コンポーネントとプロセスの関係性を可視化するエンタープライズ IT データベース製品です。CA *CMDB* は、サービスに重点を置いた IT 実現のアプローチを組織で実現できるように、IT 管理の複雑さを克服することを支援し、職務のサイロにまたがって管理を統合します。

CA CEM と CA *CMDB* 間の統合により、CA CEM は、その構成を CA *CMDB* 実装と共有できるようになりました。その結果、ほかの既知のインフラストラクチャ構成との比較でビジネス サービスとトランザクションを *CMDB* 内で視覚化することが可能になり、さらに詳細な問題切り分けが実現します。

DHCPv6

DHCPv6 は Dynamic Host Configuration Protocol for IPv6 の省略形です。DHCP はネットワーク パラメータの割り当てを管理します。この機能により、使用中のネットワークに新しいコンピュータを追加することが容易になります。

IPv6 におけるステートレス アドレスの自動構成によって IPv4 における DHCP の存在理由はなくなってしまうますが、アドレス指定をさらに制御したい場合は、DHCPv6 を使用してステートフルアドレスを割り当てることができます。また、DHCPv6 は、その他の方法では検出できない情報 (DNS サーバなど) の配信にも使用できます。

次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」、「[IPv6 \(P. 17\)](#)」

DMZ

DMZ (非武装地帯の短縮形) は、企業のプライベート LAN など信頼された内部ネットワークと、公のインターネットなど信頼されていない外部ネットワークの間に配置されるコンピュータ、または小さいサブネットワークです。

domainconfig.xml

リリース 8.2 で、*domainconfig.xml* ファイルは、CA CEM および CA Introscope® を統合する方法として使用されます。CA APM 9.0 では CEMTracer がインストールされた古いエージェントでのみ使用されます。次も参照：「[ドメイン構成 \(P. 50\)](#)」

DPMO

「[100 万機会あたりの障害数 \(DPMO\) \(P. 9\)](#)」を参照してください。

EEM

CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM) 製品。CA EEM は、一般的なアクセス ポリシーの管理、認証、および許可の各サービスを他のアプリケーションが共有できるようにする CA Technologies アプリケーションです。

EITM

Enterprise Information Technology Management です。

EM

「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」を参照してください。

EM 拡張

CA Introscope® EM 拡張は、Enterprise Manager の基本的な機能を拡張するプログラムコード (JAR ファイル) です。CEMDefinitionHandler は、リリース 8.2 で CA CEM と CA Introscope® の統合に必要とされた EM 拡張です。

次も参照：「[CEMDefinitionHandler \(P. 12\)](#)」、「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」

EM コレクタ

「[コレクタ \(P. 38\)](#)」を参照してください。

Enterprise JavaBeans (EJB)

EJB (Enterprise JavaBeans) は、エンタープライズアプリケーションのモジュール構築のために使用するサーバ側マネージド コンポーネントです。EJB はアプリケーションのビジネス ロジックをカプセル化します。

Enterprise JavaBeans の仕様は J2EE (Java Platform Enterprise Edition) のいくつかの Java API の 1 つです。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」

Enterprise Manager (EM)

Enterprise Manager (EM) は、応答時間、帯域幅、メモリ割り当てなど、アプリケーション パフォーマンス メトリックを保存および集約します。エンタープライズ全体に分散された複数のエージェントが、アプリケーションと環境のメトリックを収集および中継し、それを Enterprise Manager にレポートします。

次も参照：「[コレクタ \(P. 38\)](#)」、「[Manager of Managers \(MOM\) \(P. 21\)](#)」

EPA

「[Environmental Performance Agent \(EPAgent、EPA\) \(P. 14\)](#)」を参照してください。

EPAgent

「[Environmental Performance Agent \(EPAgent、EPA\) \(P. 14\)](#)」を参照してください。

EPAgent、EPA (Environmental Performance Agent)

Environmental Performance Agent (EPAgent、EPA) は、汎用ソースと Java 以外のソースのメトリック データを Introscope 内で統合するのを支援する、改訂されたバージョンのエージェントです。EPA では簡単なスクリプトを使用して、パフォーマンスに影響を与えている実質的にすべての種類のアプリケーション サブシステム (ディレクトリ サーバ、オペレーティング システム、メッセージング ミドルウェア、トランザクション サーバなど) を Introscope で監視できるようにします。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[ステートフルプラグイン \(P. 45\)](#)」、「[ステートレスプラグイン \(P. 45\)](#)」

ErrorDetector

CA APM *ErrorDetector* を使用すると、アプリケーションサポート担当者は、ユーザの Web トランザクションを妨げるおそれのある重大なエラーの原因を検出および診断することができます。

J2EE 仕様および .NET 仕様に含まれる情報に基づいて再定義された「重大な」エラーには、以下が含まれます。

- HTTP エラー (404 や 500 など)
- SQL ステートメントエラー
- ネットワーク接続エラー (タイムアウトエラー)
- バックエンドエラー (JMS を通じてメッセージを送信できない、メッセージキューにメッセージを書き込めない、など)

次も参照：「[エラー スナップショット](#) (P. 33)」

Event Manager

CA CEM *Event Manager* は、通信の失敗やデータベース スペースの警告などのシステム イベントをキャプチャし、ログに記録します。

FIPS

FIPS (連邦情報処理標準) は公開標準です。米国連邦政府は、すべての非軍事政府系機関および政府請負業者によって使用されることを目的として、これらの標準を開発しました。多くの *FIPS* 標準は、さらに広範なソフトウェア業界で使用されている標準の修正版です。

FIPS 140-2 の文書「*Security Requirements for Cryptographic Modules*」では、暗号のライブラリのセキュリティ標準を規定しています。この文書は、ソフトウェア製品が暗号化に使用するべきアルゴリズムを規定しています。暗号化は、パスワードの格納と検証と共に、製品のコンポーネント間および製品間でのあらゆる機密データの通信に関係します。

CA CEM は *FIPS 140-2* に準拠しています。CA CEM は、*FIPS* 準拠の暗号ライブラリおよびアルゴリズムを使用して、パスワード、HTTP 障害情報、ユーザセッション ID などの機密データの暗号化と復号化を行います。

Flex パラメータ

CA CEM は、HTTP 要求または応答のトランザクション本文内の AMF メッセージから *Flex* パラメータを抽出します。*Flex* パラメータには、Adobe *Flex* アプリケーションによって使用されるデータが含まれます。

次も参照：「[Action Message Format \(AMF\)](#) (P. 9)」

GUID

GUID（グローバル一意識別子）は、監視対象ビジネス アプリケーション内のトランザクションを識別するために、*ServletHeaderDecorator* によって生成される一意のキーです。GUID は、CA CEM と *Introscope* の間でトランザクションを関連付けるキー情報です。

GUID は、さまざまな方法で生成できますが、通常は、特定の時点でのいくつかの一意の設定の組み合わせ（IP アドレス、ネットワーク MAC アドレス、日付と時刻など）です。

次も参照：「[MAC アドレス \(P. 21\)](#)」、「[ServletHeaderDecorator \(P. 24\)](#)」

HTTP

HTTP（Hypertext Transfer Protocol）は World Wide Web で使用する基本プロトコルです。HTTP では、メッセージをフォーマットして送信する方法と、Web サーバとブラウザがコマンドに応答するアクションを定義します。

HTTPHeaderDecorator

Introscope HTTPHeaderDecorator は、.NET Agent 用に HTTP 応答ヘッダを拡張します。この機能により CA CEM は、障害の発生したトランザクションのアプリケーションサーバ詳細を表示し、障害とインシデントの詳細ページからトランザクション追跡へのハイパーリンクを *Workstation Investigator* に示すことができるようになります。

GUID がトランザクション識別子として使用されることで、CA CEM 内で監視されるトランザクションと、*Introscope Transaction Tracer* によってキャプチャされたトランザクションとが照合されます。*HTTPHeaderDecorator* は *Introscope* エージェント拡張機能です。

次も参照：「[GUID \(P. 16\)](#)」、「[ServletHeaderDecorator \(P. 24\)](#)」、「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

HTTPS

HTTPS（Hypertext Transfer Protocol Secured）は、SSL（セキュアソケットレイヤ）プロトコルを使用して HTTP セッションが通信していることを示す、標準の URL 規則です。

次も参照：「[SSL \(P. 25\)](#)」

Introscope

Introscope 製品。*Introscope* は、実運用環境にある複雑な Web アプリケーションを常時監視し、顧客に影響を与える前に問題を検出して、すばやく連携的に解決するためのエンタープライズ アプリケーション パフォーマンス管理ソリューションです。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

Introscope 対応

「[インストルメント \(P. 30\)](#)」、「[マネージドアプリケーション \(P. 64\)](#)」を参照してください。

Investigator、Workstation

Workstation *Investigator* を使用すると、アプリケーションおよびシステムのステータスの表示、メトリックデータの検索、およびツリー構造を使用したメトリックデータの閲覧を行うことができます。複数の Investigator ウィンドウを同時に開くことができます。

次も参照：「[コンソール、Workstation \(P. 38\)](#)」、「[Workstation \(P. 27\)](#)」

IPv4

IPv4 (インターネットプロトコルバージョン 4) は、インターネットプロトコル (IP) の 4 番目のイタレーションで、広く普及したプロトコルの最初のバージョンです。IPv4 は、パケット交換網 (イーサネットなど) で使用される、データ指向のプロトコルです。IPv4 アドレスは、最も一般的には (172.16.10.1 のように) ドット付き 10 進記法で表されます。

次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」、「[IPv6 \(P. 17\)](#)」

IPv6

IPv6 (インターネットプロトコルバージョン 6) は、インターネットプロトコルの現バージョンである IPv4 の後継に指定されている、インターネット上での一般利用を目的としたネットワーク層です。IPv6 アドレスは多くの場合、4 桁の 16 進数の数字 8 組で表記されます

(3fff:ffff:0ed5:0000:0000:0000:2448:78eb など)。

IPv6 拡張アドレス長は、以下の機能を提供します。

- アドレス割り当ての柔軟性が高まります。
- アドレスの枯渇を回避するためのネットワーク アドレス変換を使用する必要がなくなります。
- プロバイダ変更時のアドレス割り当ておよび番号再設定が単純化されます。

CA CEM での IPv6 サポートには以下の 2 つの面があります。

- IPv6 ネットワーク トラフィックの監視
- IPv6 ネットワーク内で運用する CA CEM および TIM の設定

次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」、「[IPv4 \(P. 17\)](#)」

IP アドレス

IP アドレス (Internet protocol アドレス) は、TCP/IP ネットワーク上のコンピュータまたはデバイスの識別子です。TCP/IP プロトコルを使用するネットワークはメッセージをあて先の IP アドレスに基づいてルーティングします。

CA CEM は、すべての障害について、クライアント コンピュータの IP アドレスおよびサーバの IP アドレスをレポートします。問題の原因を 1 台のサーバまたはネットワーク上の 1 箇所に切り分けることができる場合、この情報は問題解決プロセスで役立ちます。

クライアント コンピュータがプロキシサーバの背後にある場合、レポートされるクライアント IP アドレスはプロキシサーバのアドレスです。実際のクライアント IP アドレスが要求内に含まれている場合、

ProxyForwardHeader と呼ばれる TIM 設定を使用して、このアドレスを変更できます。ProxyForwardHeader 設定は、クライアント IP アドレスを含むヘッダを指定します。

次も参照：「[IP サブネット](#) (P. 18)」、「[MAC アドレス](#) (P. 21)」

IP サブネット

*IP サブネット*は、そこではすべてのデバイスが同じ IP アドレス プリフィックスをもつような、TCP/IP ネットワークの一部分です。たとえば、111.222.333.nnn から始まる IP アドレスをもつすべてのデバイスは、同じサブネットに属します。

次も参照：「[IP アドレス](#) (P. 18)」

ITIL

Information Technology Infrastructure ライブラリ。

IT 価値

CA CEM 管理者は、ビジネス トランザクションごとの *IT 価値*を金額で設定できます (トランザクションあたり .010 ドルなど)。この金額を使用して、トランザクションが正常に提供された場合に IT が企業にもたらす価値を計算できます。

IT 価値によって、企業の利益のために顧客にトランザクションを正常に提供することのビジネス価値が数値化されます。

CA CEM の計算：IT 価値 = ビジネス トランザクションあたりの IT 価値 * ビジネス トランザクションの個数

CA CEM の計算で使用：Net IT 付加価値 = IT 価値 - インシデント コスト

次も参照：「[インシデント コスト](#) (P. 29)」、「[Net IT 付加価値](#) (P. 22)」

J2EE

「[Java プラットフォーム](#) (P. 20)」を参照してください。

J2EE (Java 2 Platform, Enterprise Edition)

「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」を参照してください。

Java

Java は Sun Microsystems が最初に開発したプログラミング言語です。Java は Sun Microsystems Java プラットフォームのコア コンポーネントです。Java アプリケーションは通常、バイト コードにコンパイルされます。このバイト コードは、コンピュータ アーキテクチャにかかわらず任意の Java 仮想マシン (JVM) 上で実行できます。つまり、Java にはプロセッサやオペレーティング システムの制約がありません。

次も参照：「[Java Agent \(P. 19\)](#)」、「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」、「[Java 仮想マシン \(JVM\) \(P. 19\)](#)」

Java Agent

Java Agent は Java 環境でメトリックを収集します。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」、「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」、「[Java 仮想マシン \(JVM\) \(P. 19\)](#)」

Java Database Connectivity (JDBC)

Java Database Connectivity (JDBC) は、Java プログラムによる SQL ステートメントの実行を可能にする Java API です。Java プログラムで任意の SQL 準拠データベースとやり取りできるようになります。ほとんどのリレーショナルデータベース管理システムが SQL をサポートするため、また、Java がほとんどのプラットフォームで動作しているため、JDBC を使用することにより、種々のプラットフォームで動作するデータベースアプリケーションが 1 つのデータベースに書き込みできるようになり、種々のデータベース管理システムとやり取りできるようになります。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」

Java 仮想マシン (JVM : Java Virtual Machine)

Java 仮想マシン (JVM) は、Java バイト コードを実行する仮想環境で作動する、ソフトウェアプログラムとデータ構造体のセットです。JVM は、最初は Sun Microsystems によって開発された、Java プラットフォームのクリティカルなコンポーネントです。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」、「[Java エージェント \(P. 19\)](#)」、「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」

Java 管理拡張 (JMX、Java Management Extension)

Java 拡張管理 (JMX) は、共通的な、業界を超えてデプロイできる管理用の Java 言語のオープン拡張です。JMX は、アプリケーション、システム オブジェクト、デバイス、サービス指向ネットワークを管理し、監視する 1 つの方法を提供します。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」

Java プラットフォーム

Java プラットフォームは、Java プログラミング言語で記述されたプログラム用の開発およびランタイム環境の名前で、最初は Sun Microsystems によって開発されました。Java プラットフォームは、Java 仮想マシン (JVM) と呼ばれる実行エンジンに基づいています。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」、「[Java エージェント \(P. 19\)](#)」、「[Java 仮想マシン \(JVM\) \(P. 19\)](#)」、「[.NET Framework \(P. 22\)](#)」

Java メッセージング サービス (JMS : Java Messaging Service)

Java メッセージング サービス (JMS) は、2 つ以上のクライアント間でメッセージをやり取りするための Java メッセージ指向ミドルウェア API です。JMS は Java Community Process as JSR 914 で開発された仕様です。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」

JSP (Java Server Page)

JSP (Java Server Page) は、ソフトウェア開発者が web クライアント要求の応答で HTML、XML およびその他のドキュメントのタイプを動的に生成できるようにする Java 技術です。最初は Sun Microsystems が開発した技術であり、静的なコンテンツに Java コードや事前定義されたアクションを組み込むことができます。

この JSP 構文に、JSP アクションと呼ばれる XML タグを追加し、組み込み機能を呼び出すことができます。また、この技術では、標準 HTML タグまたは XML タグの拡張として動作する JSP タグ ライブラリを作成することができます。タグ ライブラリを使用すると、プラットフォームに関係なく、Web サーバの機能を拡張できます。

JSP は JSP コンパイラによってコンパイルされ、サーブレットに組み込まれます。JSP コンパイラで Java コード内にサーブレットを作成できます。この Java コードは Java コンパイラでコンパイルするか、または、直接サーブレットのバイト コードを生成することもできます。

次も参照：「[Java \(P. 19\)](#)」、「[サーブレット \(P. 39\)](#)」、「[Web サーバ \(P. 26\)](#)」

LeakHunter

CA APM *LeakHunter* により、アプリケーション サポート 担当者は、メモリ リークの原因を特定および診断できます。

次も参照：「[メモリ リーク \(P. 67\)](#)」

LSL

「[仕様限界の下限 \(P. 43\)](#)」を参照してください。

MAC アドレス

MAC アドレス (Media Access Control アドレス) は、ネットワークの各ノードを一意に識別するハードウェアアドレスです。CA CEM は、障害の発生したすべてのトランザクションについてサーバの応答で MAC アドレスを返します (入手可能な場合)。

Web サーバの真の ID を IP レベルでマスクするロードバランサの内側に Web サーバが配置されている場合、MAC アドレスは問題解決プロセスで役立ちます。たとえば、Resonate® 負荷分散環境で、すべての Web サーバは同じ IP アドレスを持っているように見えます。ただし、応答で送られる MAC アドレスによりサーバを一意に識別できます。

次も参照: 「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」

Microsoft .NET Agent

「[.NET エージェント \(P. 21\)](#)」を参照してください。

MOM (Manager of Managers)

Introscope *Manager of Managers* (MOM) は、複数の Enterprise Manager からレポートされるメトリックを保存します。Enterprise Manager クラスタによって、1つの Enterprise Manager (つまり MOM) が他の Enterprise Manager を管理することが可能になります。各管理対象のそれぞれの Enterprise Manager はコレクタと呼ばれ、エージェントメトリックを収集し、MOM に中継します。

次も参照: 「[クラスタ \(クラスタリング\) \(P. 37\)](#)」、「[コレクタ \(P. 38\)](#)」、「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」

MOM フェールオーバー

ハードウェアやネットワークの障害が原因で MOM Enterprise Manager が切断されたとき、または停止したときに Introscope MOM フェールオーバーが発生します。2番目の MOM Enterprise Manager を設定して最初の MOM Enterprise Manager を継承すると、フェールオーバーが発生します。

次も参照: 「[コレクタ \(P. 38\)](#)」、「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」、「[Manager of Managers \(MOM\) \(P. 21\)](#)」

.NET Agent

.NET Agent は Microsoft .NET 環境でメトリックを収集します。

次も参照: 「[C# \(P. 11\)](#)」、「[共通語ランタイム \(CLR\) \(P. 36\)](#)」、「[.NET フレームワーク \(P. 22\)](#)」

.NET Framework

Microsoft *.NET Framework* はさまざまなプログラミング言語およびライブラリが連携して機能するための開発および実行環境です。*.NET Framework* は、Common Language (CLR) と呼ばれるランタイム環境をベースにしており、C# などのプログラミング言語を使用します。

次も参照：「[C# \(P. 11\)](#)」、「[共通言語ランタイム \(CLR\) \(P. 36\)](#)」、「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」、「[.NET Agent \(P. 21\)](#)」

Net IT 付加価値

*Net IT 付加価値*は、ある期間の IT 価値の合計から、同じ期間のインシデントコストの合計を減算したものです。*Net IT 付加価値*とは、質の高いトランザクションを提供することで IT が企業にもたらしたすべての利益から、顧客に影響するインシデントに起因する企業の全コストを減算したものを表します。

たとえば、IT 価値が .010 ドルのトランザクションが 1 日に 100,000 件正常に提供され、IT コストが 450 ドルのインシデントがその日に 1 つ発生した場合、*Net IT 付加価値*は $(100,000 * .010 \text{ ドル}) - 450 \text{ ドル} = 550.00 \text{ ドル}$ になります。

CA CEM の計算： *Net IT 付加価値* = IT 価値 - インシデントコスト

CA CEM の計算で使用： 合計ビジネス価値 = *Net IT 付加価値* + ビジネス付加価値

次も参照：「[ビジネス付加価値 \(P. 60\)](#)」、「[インシデントコスト \(P. 29\)](#)」、「[IT 価値 \(P. 18\)](#)」、「[合計ビジネス価値 \(P. 38\)](#)」

NSM (Network and Systems Management)

CA Network および Systems Management (CA NSM) 製品。

NTP (Network Time Protocol)

NTP (Network Time Protocol) はオリジナルのインターネットプロトコルで、ネットワークを介してコンピュータシステムクロックを同期化するために使用されます。*NTP* は、複数レベルからなるクロック層の階層システムを使用します。ここでは、参照クロックからの距離と、それに関連付けられた精度情報が定義されています。

PowerPack

「[拡張機能 \(P. 35\)](#)」を参照してください。

ProbeBuilder

Introscope *ProbeBuilder* はインスツルメンテーションプロセスを実行します。このプロセスは、*ProbeBuilder* ディレクティブ (PBD) ファイルで定義されたトレーサによって実行され、エージェントが Web アプリケーションから収集するメトリック、および実行時に仮想マシンから収集するメトリックを識別します。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[AutoProbe \(P. 11\)](#)」、「[ProbeBuilder ディレクティブ \(PBD\) \(P. 23\)](#)」

ProbeBuilder Lists (PBL)

ProbeBuilder List (PBL) ファイルには、複数の *ProbeBuilder* ディレクティブ ファイルのリストが含まれます。複数の PBL ファイルで同じ PBD ファイルを参照できます。

次も参照：「[AutoProbe \(P. 11\)](#)」、「[ProbeBuilder \(P. 23\)](#)」、「[ProbeBuilder ディレクティブ \(PBD\) \(P. 23\)](#)」

ProbeBuilder ディレクティブ (PBD)

ProbeBuilder ディレクティブ (PBD) ファイルを使用して、タイマやカウンタなどのプローブを .NET や Java などのコンポーネントに追加して、Web アプリケーションをインスツルメントする方法を *ProbeBuilder* に通知します。*ProbeBuilder* ディレクティブ ファイルでは、エージェントが *Enterprise Manager* にレポートする特定のメトリックを指定します。また、カスタム ディレクティブを作成して、特定の web アプリケーションで固有のクラスやメソッドを追跡することも可能です。

次も参照：「[AutoProbe \(P. 11\)](#)」、「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」、「[ProbeBuilder \(P. 23\)](#)」、「[ProbeBuilder Lists \(PBL\) \(P. 23\)](#)」

ProbeBuilding、動的

「[動的インスツルメンテーション \(P. 50\)](#)」を参照してください。

RADV

RADV は Router Advertisement の頭字語です。IPv6 では、ルータ アドバタイズ メッセージを送信するルータを介してルータ検出を実行できます。定期的に行うことも、ルータ要請メッセージによるホストの要求に応じて行うこともできます。*RADV* は LAN (ローカルエリアネットワーク) に IPv6 をアナウンスするために使用できます。

次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」、「[IPv6 \(P. 17\)](#)」

SARM

Siebel *SARM* (Siebel Application Response Measurement) を使用すると、Siebel 環境内の Siebel アプリケーションの応答時間測定が可能になります。

CA CEM は Siebel SARM 関連データを収集します。収集したデータを使用して、特定のユーザおよびトランザクションに関連するエビデンスを収集するためのクエリを Siebel に対して実行できます。

SDK

ソフトウェア開発キット。
次も参照：「[API \(P. 9\)](#)」

Service Desk

CA *Service Desk* 製品。

ServletHeaderDecorator

Introscope *ServletHeaderDecorator* は、Java Agent 用にサーブレットからの HTTP 応答ヘッダを拡張します。この機能により CA CEM は、障害の発生したトランザクションのアプリケーションサーバ詳細を表示し、障害とインシデントの詳細ページからトランザクション追跡へのハイパーリンクを Workstation Investigator に示すことができるようになります。GUID がトランザクション識別子として使用されることで、CA CEM 内で監視されるトランザクションと、Introscope Transaction Tracer によってキャプチャされるトランザクションとが照合されます。ServletHeaderDecorator はエージェント拡張機能です。
次も参照：「[GUID \(P. 16\)](#)」、「[HTTPHeaderDecorator \(P. 16\)](#)」、「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

SiteMinder

CA *SiteMinder* 製品。

SLA、シグマ

「[シグマ SLA \(P. 41\)](#)」を参照してください。

SLA、成功率

「[成功率 SLA \(P. 47\)](#)」を参照してください。

SLA、相関

「[相関 SLA \(P. 48\)](#)」を参照してください。

SLA、トランザクション時間

「[トランザクション時間 SLA \(P. 53\)](#)」を参照してください。

SmartStor データベース

Introscope SmartStor データベースには、常にすべてのアプリケーションパフォーマンス データ (Introscope メトリック) が記録されます。したがって、履歴データの分析、アプリケーションダウンタイムの根本原因の特定、キャパシティ分析などを外部データベースを使用せずに行うことができます。

SmartStor は Introscope のインストール時にデフォルトで有効に設定されます。SmartStor のデータは、一定期間が経過すると破棄されるように設定されます。そのため、データストアが極端に大きくなることはありません。複数のデータファイルがあり、より多くのデータが生成されるにつれて、データファイルの数は増えます。

次も参照：「[APM データベース \(P. 10\)](#)」、「[ベースラインデータベース \(P. 64\)](#)」、「[トランザクションイベントデータベース \(P. 52\)](#)」

SPAN ポート

「[ミラーポート \(P. 65\)](#)」を参照してください。

SSH

SSH (セキュアシェル) はセキュリティプロトコルであり、強度の暗号を使用して (Windows ベースのクライアントコンピュータから UNIX ベースのサーバへの) 接続を、盗聴、ハッキング、他者からの攻撃から保護します。

SSL

SSL (セキュアソケットレイヤ) は、プライベートなドキュメントをインターネットを通じて転送するために開発されたプロトコルです。SSL では、周知の公開鍵と、メッセージの受信者のみが知っている秘密鍵を使用します。

CA CEM が HTTPS トランザクションの障害を追跡するためには、SSL 秘密鍵ファイルが必要になります。

次も参照：「[HTTPS \(P. 16\)](#)」

TIM (トランザクションインパクト監視)

TIM サーバは、HTTP パケットの記録と監視、ユーザログインと関連トランザクションの識別、および障害やその他の統計の監視と CA CEM へのレポートを行います。CA CEM 環境には 1 つ以上の TIM を含めることができます。

次も参照：「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」

Transaction Generator

CA APM Transaction Generator は、合成トランザクションを作成する機能を提供する製品です。CA APM TG は CA CEM と Introscope を統合します。

Transaction Tracer

Introscope *Transaction Tracer* は、以下の境界を通過する個々のトランザクションのアクティビティを監視します。

- 単一の Java 仮想マシン (JVM)
 - .NET の場合の共通言語ランタイム (CLR) 仮想プラットフォーム
- Transaction Tracer* では、コンポーネント レベルでトランザクションのアクティビティを追跡できるので、トランザクション内で問題のあるコンポーネントを特定するまでにかかる時間が削減されます。 *BizTrxHttpTracer* は、エージェント ルール セットに含まれるトランザクション情報を使用して、CA CEM の代わりに *Transaction Tracer* を開始します。
- 次も参照：「[BizTrxHttpTracer \(P. 11\)](#)」、「[ルールセット \(P. 71\)](#)」

USL

「[仕様限界の上限 \(P. 43\)](#)」を参照してください。

Web Start

次も参照：「[Workstation Web Start \(P. 27\)](#)」

WebView

APM WebView では、カスタマイズ可能なダッシュボードや Investigator ツリービューが、ブラウザ インターフェイスで提供されます。 *WebView* を使用すると、*Workstation* の補助なしで重要情報を表示できるようになります。

次も参照：「[Workstation Web Start \(P. 27\)](#)」

Web アプリケーション

Web アプリケーション (Web アップと呼ぶこともあります) は、Web ブラウザを使用してネットワーク経由でアクセスされるソフトウェアアプリケーションです。 *Web アプリケーション* は、HTML、Java、JavaScript など、ブラウザが対応している言語でコード化されます。

次も参照：「[ビジネスアプリケーション \(P. 59\)](#)」

Web サーバ

Web サーバ は、World Wide Web に接続するすべてのコンピュータから、随時にアクセスできる Web ベースのアプリケーションを管理および共有します。すべての *Web サーバ* は IP アドレスをもち、多くの場合ドメイン名が付与されています。

Web サービス API

CA CEM の *Web サービス API* には、外部レポートシステムで使用したり、サードパーティ製品と統合したりするための、CA CEM からデータを抽出する機能があります。

Workstation

Introscope *Workstation* を使用して、Introscope を制御し、パフォーマンス メトリックにアクセスすることができます。個別のメトリックまたは論理メトリック グループへのアラートの設定、パフォーマンス メトリックの表示、独自の環境に合わせたビューのカスタマイズを行うことができます。次も参照：「[Workstation Web Start \(P. 27\)](#)」

Workstation Web Start

Introscope *Workstation Web Start* は、Java Web Start を使用して Introscope Workstation を開始します。

アプリケーションサーバ

アプリケーションサーバはネットワーク上のサーバプログラムであり、アプリケーションプログラム用のビジネス ロジックを提供します。一般的には IBM WebSphere や BEA Weblogic などの J2EE (Java 2 Platform, Enterprise Edition) アプリケーションサーバを指します。次も参照：「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」

アプリケーションサーバ時間

アプリケーションサーバ時間は、アプリケーションサーバがトランザクションを処理するのにかかった時間の測定値です。Introscope によってレポートされます。Introscope は、応答に関与している最初の追跡対象コンポーネントからの応答時間をレポートします。

アプリケーション サポート ビリティ

Introscope では、さまざまなアプリケーション コンポーネントのパフォーマンスを測定することにより、アプリケーション サポート ビリティを測定します。各種メトリックによって、JVM/CLR、Web アプリケーション、およびバックエンドシステムに関する情報が提供されます。ユーザがアプリケーションの稼働状況を把握できるように、CA APM はサポート ビリティ メトリックを提供しています。

アプリケーションの稼働状況

「[アプリケーション サポート ビリティ \(P. 27\)](#)」を参照してください。

アプリケーション問題切り分けマップ

アプリケーション問題切り分けマップは、管理対象アプリケーションのグラフィカルビューによって、アプリケーションの稼働状況とエラーを表示します。このマップは、Introscope メトリック、エラー、およびイベントのパフォーマンスと分析から自動的に生成されます。

アプリケーション問題切り分けマップを使用すると、フロントエンドアプリケーションとその依存関係の観点、およびビジネス サービスとその依存関係の観点からアプリケーションを表示できます。
インスツルメンテーション (PBD) ファイルを設定することで、アプリケーションのデフォルト ビューをカスタマイズできます。
次も参照：「[ビジネス トランザクション コンポーネント \(P. 60\)](#)」、「[管理対象アプリケーション \(P. 64\)](#)」

アプレット

アプレットは、Java プログラミング言語で書かれたプログラムであり、ページにイメージを含めるのと同じような方法で HTML ページにアプレットを含めることができます。Java テクノロジ対応のブラウザを使用してアプレットを含むページを表示すると、そのアプレットのコードがユーザのシステムに転送されます。ブラウザの Java 仮想マシン (JVM) がアプレット コードを実行します。
次も参照：「[Java 仮想マシン \(JVM\) \(P. 19\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

アラート

アラートは、「警告」および「危険」を表す一連のしきい値と、付随するその他のプロパティとが一緒に保存されたオブジェクトです。Introscope において、アラートは管理モジュール内の基本オブジェクトの 1 つです。管理モジュールには、このようなオブジェクトが再利用のために保存されます。アラートには一般にアクションが関連付けられますが、アクション自体は個別の管理モジュール オブジェクトです。
アラート自体 (保存されたしきい値に関連付けられているアラートの名前など) と、以下は必ず区別してください。

- アラート インジケータ。アラート ステータスを視覚的に表示したもの
- アラート通知。アラートに関連付けることができるアクションの 1 つ

イベント

Introscope のイベントは、エージェントによるメトリックのキャプチャ対象となる任意のアクションです。たとえば、トランザクション追跡、エラー、ストールがあります。
次も参照：「[CA APM ErrorDetector \(P. 15\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」、「[ストール \(P. 45\)](#)」、「[トランザクション追跡 \(P. 54\)](#)」

インシデント

CA CEM のインシデントは、トランザクションタイプおよび障害タイプに基づいて関連付けられる障害のグループを表します。インシデントは、企業活動に影響を及ぼす問題で、エンドユーザに多大な影響を与えているので、企業は問題が解決されるように行動する必要があります。

インシデント、保留中

「[保留中のインシデント](#) (P. 64)」を参照してください。

インシデントコスト

CA CEM 管理者は、すべてのオープン（アクティブ）インシデントに適用されるインシデントコスト（金額）を設定します。たとえば、あるインシデントが 45 分間にわたって 10 人のユーザに影響し、インシデントコストが 1 ドルに設定されている場合、そのインシデントの合計コストは $10 * 45 * 1 = 450$ ドルと計算されます。

インシデントコストは、ビジネスに関する品質の低さのコストを見積もるのに使用されます。インシデントコストには、生産性の損失などの直接コストと、評判と信用の失墜などの間接コストが含まれる場合があります。

インシデントコストには、未指定ユーザのグループに割り当てられたユーザアクティビティは含まれません。各インシデントで失われた価値（または収益）を計算するのにインシデントコストを使用できます。

CA CEM の計算：インシデントコスト = 各ユーザの 1 分あたりのコスト * ユーザの数 * インシデントの継続時間（分単位）

CA CEM の計算で使用：Net IT 付加価値 = IT 価値 - インシデントコスト

次も参照：「[IT 価値](#) (P. 18)」、「[Net IT 付加価値](#) (P. 22)」

インシデントしきい値

「[インパクトしきい値](#) (P. 30)」を参照してください。

インシデント重大度

インシデント**重大度**は、インシデントおよびそれに関連する障害の重大度を表します。考えられるインシデント**重大度**の状態は次のとおりです。

-
- 低 - インシデントは生成されたが、しきい値は超過していない
 - 中程度 - 中程度のしきい値を超過した
 - 深刻 - 重大なしきい値を超過した
 - クリティカル - クリティカルなしきい値を超過した

次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[インパクトしきい値 \(P. 30\)](#)」、「[インシデントのビジネスインパクト \(P. 30\)](#)」

インシデント状態

インシデント状態は、インシデントおよびそれに関連する障害のステータスを表します。以下のインシデント状態があります。

- 保留中 - 1つ以上の障害があります。中程度のしきい値をまだ超えていないか、インシデント生成ルールが満たされていません。
 - オープン - 中程度のしきい値を超え、クローズされていません。
 - クローズ - CA CEM オペレータがこのインシデントをクローズしました。
 - エイジアウト - インシデントのエイジアウトルールが満たされました。
- 次も参照：「[インシデント重大度 \(P. 29\)](#)」、「[保留中のインシデント \(P. 64\)](#)」

インシデントのビジネスインパクト

インシデントのビジネスインパクトは、インシデントに含まれる障害のビジネスインパクトをすべて加算して計算されます。

CA CEM の計算：インシデントのビジネスインパクト = 障害 1 のビジネスインパクト + 障害 2 のビジネスインパクト... + 障害 n のビジネスインパクト

次も参照：「[障害のビジネスインパクト \(P. 43\)](#)」、「[インパクトしきい値 \(P. 30\)](#)」

インスツルメント

ProbeBuilder が、エージェントにメトリックを送信するためにバイトコード内にプローブを挿入すると、アプリケーションコードがインスツルメントされます。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[AutoProbe \(P. 11\)](#)」、「[マネージドアプリケーション \(P. 64\)](#)」、「[ProbeBuilder \(P. 23\)](#)」

インパクトしきい値

インパクトしきい値は、インシデント用およびエビデンスコレクション用のトリガポイントです。値 (ウェイト) は、3つのしきい値について CA CEM ドメインレベルで設定します。

- 中程度 (デフォルト = 1000)

- 深刻 (デフォルト = 2500)

- クリティカル (デフォルト = 5000)

インシデントのインパクトしきい値を超えると、その重大度の状態が変わります。インパクトしきい値を上げると、エビデンス コレクション、あるいはトラブルチケット作成などの自動化アクションが開始される場合もあります。

次も参照：「[エビデンス コレクション \(P. 33\)](#)」、「[インパクトレベル \(P. 31\)](#)」、「[インシデントのビジネスインパクト \(P. 30\)](#)」、「[インシデント 重大度 \(P. 29\)](#)」

インパクト レベル

CA CEM 内では、インパクト レベル (つまりビジネスのコスト) を複数のレベルで設定できます。

障害のビジネスインパクトは、以下の要因のインパクト レベルによって異なります。

- 障害に関連するトランザクション
- 障害タイプ
- 障害のあるトランザクションを実行したユーザ

各インパクト レベルには、ビジネスインパクトの計算に使用する対応値 (ウェイト) があります。以下の数値はウェイトです。

0 無視

1 最小

2 最低

3 低

4 中 (デフォルト)

5 高

6 クリティカル

7 すぐにトリガ (中程度のインシデントをただちに適用)

ビジネスインパクトのウェイトは、[主要インパクト要因] および [障害] ページに表示されます。

デフォルトでは、ユーザインパクトレベル設定は、トランザクションを実行したユーザのユーザグループ設定から継承されます。デフォルトでは、トランザクションインパクトレベル設定は、トランザクションのビジネスサービス設定から継承されます。そして、トランザクションのビジネスサービス設定は、CA CEM ドメイン設定から継承されます。
次も参照：「[ビジネスインパクト \(P. 59\)](#)」、「[インパクトしきい値 \(P. 30\)](#)」、「[インシデント \(P. 29\)](#)」

運用レベル契約 (OLA、operating level agreement)

運用レベル契約 (OLA) は、IT 組織と内部グループの間の契約で、この契約によって 1 つ以上のアプリケーションが管理されます。契約の条項は当事者間の要件によって決まります。OLA を使用して IT グループのサービス契約内容の準拠事項を管理します。

次も参照：「[サービスレベルアグリーメント \(SLA\) \(P. 39\)](#)」、「[サービスレベル目標 \(SLO\) \(P. 39\)](#)」

永続

永続はデータの特徴であり、作成したプログラムが終了してもなおも持続して示されます。この機能がない場合、データが単にメモリに存在することになり、コンピュータのシャットダウンなどでメモリに電力が供給されなくなったときに消滅します。

永続コレクション

永続コレクションは、メトリックを保存して、Oracle などの外部ツールで使用できるようにする 1 つの方法です。永続コレクションをフラットな CSV ファイルやデータベースに書き込むことができます。

エージェント

Introscope がデプロイされたシステムでは、エージェントが Web アプリケーションおよび環境のメトリックを収集し、それを Enterprise Manager に渡します。エージェントにメトリックをレポートする Web アプリケーションを、インストゥルメントされたアプリケーションと呼びます。

次も参照：「[インストゥルメントされた \(P. 30\)](#)」、「[Java Agent \(P. 19\)](#)」、「[.NET Agent \(P. 21\)](#)」

エージェント - Enterprise Manager ネットワーク トポロジ

エージェント - Enterprise Manager ネットワーク トポロジは CA APM 環境のネットワーク構造です。このトポロジは、どのエージェントまたはエージェントグループが特定のスタンドアロン Enterprise Manager、コレクタ、およびコレクタグループに接続できるかを指定します。

エージェント拡張機能

エージェント拡張機能は、エージェントの基本的な機能を拡張するプログラムコード (JAR/DLL および関連の PBD ファイル) です。BizTrxHttpTracer および ServletHeaderDecorator/HTTPHeaderDecorator は、CA CEM と Introscope の統合に必要なエージェント拡張機能です。
次も参照：「[BizTrxHttpTracer \(P. 11\)](#)」、「[HTTPHeaderDecorator \(P. 16\)](#)」、「[ServletHeaderDecorator \(P. 24\)](#)」

エージェントの負荷分散

エージェントの負荷分散は、クラスタ環境におけるコレクタ間のメトリック負荷を分散します。MOM に割り当てられている特定のエージェントは、メトリックデータを、クラスタ内で最も負荷の軽いコレクタへ送信するようエージェントに指示して、コレクタ間のメトリック数を等しくします。
次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[クラスタ \(クラスタリング\) \(P. 37\)](#)」、「[コレクタ \(P. 38\)](#)」、「[MOM \(Manager of Managers\) \(P. 21\)](#)」

エビデンス コレクション

エビデンス コレクションプロセスは、インシデントがオープンするとき、およびインシデント上でビジネスインパクトのしきい値を超過するときに開始できます。エビデンス コレクションプロセスには、システム統計の収集、データ収集、スクリプト実行などの開始を含めることができます。収集されたエビデンスには、インシデントの原因を特定および解決するのに役立つパフォーマンス、可用性、使用率および設定情報が含まれている場合があります。
次も参照：「[ビジネスインパクト \(P. 59\)](#)」、「[インパクトしきい値 \(P. 30\)](#)」、「[インシデント \(P. 29\)](#)」

エラー スナップショット

CA APM ErrorDetector はエラー スナップショットを生成します。このスナップショットには、エラーが発生したときに何が起こっていたかを示す詳しい情報が表示されます。エラー スナップショットデータは、トランザクション イベント データベースに保存されます。
次も参照：「[CA APM ErrorDetector \(P. 15\)](#)」

エンコード、文字

「[文字エンコード \(P. 67\)](#)」を参照してください。

応答、なし

「[応答なし \(P. 34\)](#)」を参照してください。

応答、不完全

「[不完全応答 \(P. 62\)](#)」を参照してください。

応答時間、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

応答障害

応答障害は、トランザクションの応答を分析することによって特定できる障害です。応答障害は、成功率、合計、正常、および障害の観点から見た測定値です。

応答障害は、障害が発生したことを示す HTTP 応答コードの発生についての HTTP ヘッダを分析することによって検出されます。また、障害が発生したことを示すエラーメッセージ、または他のコンテンツパターンの発生に対する応答の完全なコンテンツを分析することによっても、応答障害が検出されます。

次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」

応答なし

応答なしは、設定可能な想定期間内に特定のコンポーネントに対する要求が観測されたが、応答が観測されなかったことを意味します。デフォルトの期間は 60 秒です。

次も参照：「[不完全応答 \(P. 62\)](#)」

応答ベースのトランザクション

応答ベースのトランザクションは、CA CEM が HTTP 応答パラメータに基づいて識別するビジネス トランザクションです。応答ベースのトランザクション定義は、要求ベースのトランザクション定義から拡張されます。要求ベースのトランザクション定義を作成するとき、その定義はほかの定義から独立しています。ただし、応答ベースのトランザクション定義は、要求ベースのトランザクション定義に依存しており、この定義から作成されます。

次も参照：「[要求ベースのトランザクション \(P. 70\)](#)」

収率

収率は、パーセンテージで表される品質の測定値で、障害のない結果を生み出すプロセスの能力を表します。

CA CEM の計算：収率 = 1 - 障害 / 機会

次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[機会 \(P. 35\)](#)」

階層、トランザクション

「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」を参照してください。

カウント、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

拡張機能

*拡張機能*は、Introscope のデータ監視機能を拡張する CA APM アプリケーションです。拡張機能は Introscope のコア コンポーネントと簡単に統合できるので、すでに確立されている Introscope 環境での使用と統合が容易に実現します。

稼働状況、アプリケーション

「[アプリケーション サポート ビリティ \(P. 27\)](#)」を参照してください。

ガベージコレクション

自動メモリ管理、つまりガベージコレクションは使用されなくなったオブジェクトのメモリを再利用するためのプロセスです。

監視

エージェントは、エンドツーエンドの Web パフォーマンス、Java コンポーネントとその依存関係、CLR コンポーネントとその依存関係、バックエンドシステムへの接続、およびリソース レベル（サードパーティ製ソフトウェアを含む）とアプリケーション サーバのリソースを監視します。

CA CEM の監視はトランザクションインパクト監視 (TIM) です。TIM はトランザクションを監視し、障害と統計を CA CEM にレポートします。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[すべての監視を同期 \(P. 46\)](#)」、「[TIM \(トランザクションインパクト監視\) \(P. 25\)](#)」

監視、同期

「[すべての監視を同期 \(P. 46\)](#)」を参照してください。

管理モジュール

Introscope 管理モジュールには、監視設定情報のセットが含まれています。管理モジュールは、ドメインごとにリストされ、エレメントが含まれます。エレメントとは、モニタリング ロジックに基づいてデータの格納と整理を行うオブジェクトのことです。エレメントには、アラート、アクション、およびダッシュボードがあります。

次も参照：「[ダッシュボード \(P. 48\)](#)」、「[WebView \(P. 26\)](#)」、「[Workstation \(P. 27\)](#)」

機会

機会とは、障害が発生する可能性のある、製品内、プロセス内、サービス内、またはほかのシステム内の任意の領域を指します。一般的に、製品が複雑になるほど、障害の機会は増えます。

CA CEM では、トランザクションまたはコンポーネントが障害テストに合格または失敗する必要があるごとに、機会が発生します。設定される規格の数に応じて、1つのコンポーネントあたり最大6つの機会を持つ可能性があります（低速、高速、低スループット、高スループット、コンテンツエラー、サーバエラー）。トランザクションは、コンポーネントなしの場合もあり得るため、最大で7つの機会を持つ可能性があります。次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[規格 \(P. 36\)](#)」

規格

規格は、トランザクションまたはトランザクションのコンポーネントの要件です。関連する規格で確立された要件を満たさないトランザクションまたはコンポーネントは、障害として定義されます。たとえば、低速障害は、5.00秒を超える任意のトランザクション時間として定義できます。固定のしきい値ではなくベースラインを使用することで、障害規格の正常値を判断する作業が CA CEM 管理者から CA CEM 自体に移ります。次も参照：「[ベースライン \(P. 63\)](#)」、「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[仕様限界の下限 \(P. 43\)](#)」、「[仕様限界の上限 \(P. 43\)](#)」

キャッシュ可能

キャッシュ可能なトランザクションまたはコンポーネントとは、ブラウザクライアント、またはプロキシサーバによってキャッシュされている可能性があるものです。そのため、以前にキャッシュされたとき、トランザクションまたはコンポーネントはTIMによって監視されていない場合があります。

次も参照：「[キャッシュ不可 \(P. 36\)](#)」

キャッシュ不可

キャッシュ不可トランザクションまたはコンポーネントは、ブラウザクライアントまたはプロキシサーバがキャッシュできないものを指します。TIM は、キャッシュ不可としてマークされているトランザクションまたはコンポーネントを監視する必要があります。存在しない場合、[コンポーネントなし] または [トランザクションなし] 障害が生成され、トランザクションが [障害あり] としてマークされます。次も参照：「[キャッシュ可能 \(P. 36\)](#)」、「[コンポーネントなし \(P. 39\)](#)」、「[トランザクションなし \(P. 55\)](#)」

共通言語ランタイム (CLR)

共通言語ランタイム (CLR) は Common Language Infrastructure (CLI) の Microsoft の実装です。CLI の目的は、アプリケーションの開発および実行のための言語に依存しないプラットフォームを提供することです。

.NET CLR は、Java プラットフォームの JVM に相当するものです。
次も参照：「[C# \(P. 11\)](#)」、「[.NET エージェント \(P. 21\)](#)」、「[.NET Framework \(P. 22\)](#)」

クライアント IP アドレス

次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」

クラスタ (クラスタリング)

通常、クラスタは、複数のコンピューティング デバイスのリソース（通常は個別に機能する）を共通の目的のために統合したものです。
クラスタリングによって、Enterprise Manager は、ほかの Enterprise Manager を管理でき、すなわち MOM (Manager of Managers) として機能できます。
次も参照：「[Enterprise Manager \(EM\) \(P. 14\)](#)」、「[Manager of Managers \(MOM\) \(P. 21\)](#)」

クランプ

クランプは、特定の関数について返されるメトリック数の設定可能な制限値です。エージェントや Enterprise Manager などのさまざまな CA APM コンポーネントのトランザクション追跡クランプとメトリック クランプで使用します。
次も参照：「[メトリック クランプ \(P. 66\)](#)」、「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

グループ

CA CEM におけるグループは、複数のユーザまたは複数のサービスを記述するために使用されます。測定値はグループ内で集約され、セットについて計算されます。
次も参照：「[ビジネス サービス \(P. 59\)](#)」、「[ビジネス トランザクション \(P. 60\)](#)」、「[セット \(P. 48\)](#)」

クロス クラスタ データ ビューア (CDV)

クロス クラスタ データ ビューア (CDV) は、複数のクラスタ内の複数のコレクタからエージェントおよびカスタマ エクスペリエンスのメトリック データを収集することに特化した Enterprise Manager です。CA APM 管理者および問題切り分け担当者は、CDV Workstation を使用して、ダッシュボードを作成および表示できます。CDV ダッシュボードには、コレクタによって提供されるエージェントおよびカスタマ エクスペリエンスのメトリックの統合ビューが表示されます。各コレクタは、複数の CDV に接続可能であるため、さまざまな CA APM クラスタにレポートしているアプリケーションを柔軟に監視および表示できます。

合計ビジネス価値

CA CEM の合計ビジネス価値は、Net IT 付加価値とビジネス付加価値を組み合わせたものです。

CA CEM の計算：合計ビジネス価値 = Net IT 付加価値 + ビジネス付加価値
次も参照：「[ビジネス付加価値](#) (P. 60)」、[「Net IT 付加価値](#) (P. 22)」

合計ビジネス トランザクション数

CA CEM の合計ビジネス トランザクション数は、ある期間におけるプロセスの全トランザクションの数です。

コレクタ

Enterprise Manager コレクタは、クラスタ化された環境で Manager of Managers (MOM) によって管理されるコレクタです。

次も参照：「[クラスタ \(クラスタリング\)](#) (P. 37)」、[「Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」、[「Manager of Managers \(MOM\)](#) (P. 21)」

コンソール、Workstation

コンソールは、Introscope Workstation を起動したときのデフォルトビューであり、性能データをグラフィカルに表示するダッシュボードを表示します。

次も参照：「[ダッシュボード](#) (P. 48)」、[「Investigator、Workstation](#) (P. 17)」、[「Workstation](#) (P. 27)」、[「WebView](#) (P. 26)」

コンテナ

コンテナは enterprise beans の Java 実行時環境です。コンテナは EJB (Enterprise JavaBeans) サーバ上で動作し、enterprise bean オブジェクトのライフサイクルを管理し、分散トランザクションを調整し、オブジェクトのセキュリティを実装します。

次も参照：「[Enterprise JavaBeans \(EJB\)](#) (P. 14)」、[「トランザクション](#) (P. 51)」

コンテンツ エラー

コンテンツ エラーは、エラーが発生したことを示すエラー メッセージまたは他のパターンの発生に対する応答の内容を完全に分析した後で、TIM が障害を生成することを意味します。

コンポーネント、トランザクション

[「トランザクション コンポーネント](#) (P. 53)」を参照してください。

コンポーネント、なし

[「コンポーネントなし](#) (P. 39)」を参照してください。

コンポーネント、ビジネス トランザクション

「[ビジネス トランザクション コンポーネント](#) (P. 60)」を参照してください。

コンポーネントなし

トランザクションのキャッシュ不可コンポーネントがない場合、コンポーネントなし障害が生成されます。これは、設定可能な想定期間（デフォルトは10秒）内にこのコンポーネントの要求が観測されなかったことを意味します。

次も参照：「[キャッシュ可能](#) (P. 36)」、「[トランザクションなし](#) (P. 55)」、「[キャッシュ不可](#) (P. 36)」

サービス レベル アグリーメント (SLA)

サービス レベル アグリーメント (SLA) は、サービス プロバイダ (IT など) と顧客 (ビジネス ユニットや電子商取引の顧客など) の間の許諾契約についての、現在および履歴の測定です。

SLA は、顧客の期待ではなく、IT の能力に基づいている場合があります。

次も参照：「[運用レベル契約 \(OLA\)](#) (P. 32)」、「[サービス レベル目標 \(SLO\)](#) (P. 39)」

サービス レベル目標 (SLO)

サービス レベル目標は、あるシステムのビジネス ユーザと、そのシステムを管理する IT 組織との間で取り交わす合意書です。SLO は、サービス レベル アグリーメントが履行されているかどうかを判断する測定可能な条件を定義します。SLO の測定値には次のものがあります。

- 可用性：システムが起動し動作しているかどうか
- パフォーマンス：システムがユーザの要求に正常に応答し、その状態を維持しているかどうか
- IT の有効性：問題が発生したときに IT 組織が適切に対応しているかどうか

次も参照：「[運用レベル契約 \(OLA\)](#) (P. 32)」、「[サービス レベル アグリーメント \(SLA\)](#) (P. 39)」

サーブレット

サーブレットは、サーバに追加機能を提供するサーバ側 Java プログラムです。サーブレットはアプレットとは異なる Java アプリケーションであり、サーバ上で動作し、クライアントに送信される HTML ページを生成します。サーブレットは Java 対応されていないブラウザで動作できます。

次も参照：「[HTTP](#) (P. 16)」、「[Java](#) (P. 19)」、「[Web サーバ](#) (P. 26)」

サイズ、トランザクション

「[トランザクションサイズ \(P. 53\)](#)」を参照してください。

サブネット

「[IP サブネット \(P. 18\)](#)」を参照してください。

サポータビリティ メトリック

Introscope サポータビリティ メトリックは、Enterprise Manager 自身の稼働状態を良好に保つようサポートします。Enterprise Manager は、自身に関するメトリックの生成および収集を行います。これは、自身の稼働状況を評価し、その負荷状態で十分に機能しているかを判断するのに役立ちます。

時間、トランザクション

「[CEM トランザクション時間 \(P. 12\)](#)」を参照してください。

しきい値、インシデント

「[インシデントしきい値 \(P. 29\)](#)」を参照してください。

識別コンポーネント

識別コンポーネントは、トランザクション コンポーネントセット内の最初のトランザクション コンポーネントです。識別コンポーネントは、トランザクションの開始を一意に識別します。識別コンポーネントはほかのトランザクションのコンポーネントではあってはなりません。

注: リダイレクトがトランザクション記録内の最初のコンポーネントとして表示される場合があります。ただし、それは識別コンポーネントではありません。

次も参照: 「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

識別トランザクション

識別トランザクションは、ビジネス トランザクションセット内の最初のトランザクションです。識別トランザクションは、ビジネス トランザクションの開始を一意に識別します。他のビジネス トランザクションのトランザクションを識別トランザクションにすることはできません。

次も参照: 「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

シグネチャ、トランザクション

「[トランザクションシグネチャ \(P. 53\)](#)」を参照してください。

シグマ

シグマスコア (別名「Zスコア」) は、サービス内の障害の測定値としてシックスシグマシステムで使用する値です。

シグマスコアは0から無限の範囲を持ちます。一般的に、シグマスコアは高い方が良好であることを意味します。障害数ゼロのサービスは、無限のシグマスコアを持ち、アスタリスク (*) で表されます。

注: シグマスコアを標準偏差と混同しないでください。後者は一般的にギリシャ記号シグマ (σ) によって表されます。シグマスコアは標準偏差に反比例します。

CA CEM で、シグマスコアには 1.5 シグマプロセスシフトが含まれます。次も参照：「[シックスシグマ \(P. 41\)](#)」、「[SLA、シグマ \(P. 24\)](#)」

シグマ SLA

シグマサービスレベルアグリーメント (SLA) は、サービスレベルの質を示す数値です。デフォルトは 4.00 (100 万機会当たりの障害数が約 6,200) で、6.00 はほとんどパーフェクト (100 万機会当たりの障害数が約 3.4) です。

次も参照：「[100 万機会あたりの障害数 \(DPMO\) \(P. 9\)](#)」、「[サービスレベルアグリーメント \(SLA\) \(P. 39\)](#)」、「[シグマ \(P. 40\)](#)」

システムログ、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

シックスシグマ

シックスシグマは、ビジネスの成功を達成、維持、最大化するための包括的で柔軟なシステムです。シックスシグマは、顧客ニーズの理解、情報の厳密な取り扱い、データおよび統計情報の分析、注意深い管理、ビジネスサービスの改善および改革により、独自の発展を遂げています。

障害

障害とは、トランザクションが顧客の期待を満たせなかった場合や、トランザクションの規格に適合できなかった場合を表します。障害は、*動作障害*と*応答障害*に分類されます。

トランザクションの 1 回の失敗が 1 件の障害となります。トランザクションが複数の規格に適合しない場合、複数の障害が生成されます（「低速トランザクション」および「コンポーネントなし」など）。

障害は障害パレートおよび他のグラフを使用して追跡できます。

注: これは[障害トランザクション](#) (P. 42)とは異なります。

次も参照: 「[動作障害](#) (P. 50)」、「[障害パレート図](#) (P. 43)」、「[機会](#) (P. 35)」、「[応答障害](#) (P. 34)」、「[規格](#) (P. 36)」

障害タイプ

CA CEM の障害タイプには、低速トランザクション/高速トランザクション、高スループット/低スループット、大サイズ/小サイズ、HTTP ステータスコード、トランザクションなし/コンポーネントなし、コンテンツエラー、応答なし、不完全応答などがあります。

CA CEM 管理者は、トランザクション障害およびそれらの規格制限を設定できます。たとえば、5 秒を超えるトランザクション時間は、遅すぎるとみなされる場合があります。

次も参照: 「[障害](#) (P. 41)」

障害トランザクション

障害トランザクションは 1 つ以上の障害があるトランザクションです。

注: これは[障害](#) (P. 41)とは異なる概念です。

次も参照: 「[正常トランザクション](#) (P. 47)」

障害の原因と考えられる Blame コンポーネント

障害の原因と考えられる *Blame* コンポーネントは、低速トランザクションでの遅延の原因と考えられるロジック（またはプログラムコード）の最も顕著な部分です。Introscope では、障害の原因と考えられる *Blame* コンポーネントは、グラフで最も広いコンポーネントとして表示されますが、必ずしも最低のコンポーネントとは限りません。

注: 障害の原因と考えられる *Blame* コンポーネントは、Introscope グラフでは、最低で最も低速のコンポーネントではなく、最も低速で最低のコンポーネントです。

障害の原因と考えられる *Blame* コンポーネントは、トランザクション時間全体の 25% 以上かかる最低の（バックエンドでない）コンポーネントを調べることによって識別されます。

障害の原因と考えられる Blame バックエンド コンポーネント

障害の原因と考えられる *Blame* バックエンド コンポーネントは、低速トランザクションの遅延の原因と考えられる、バックエンド時間の最も具体的な部分です。Introscope では、障害の原因と考えられる *Blame* バックエンド コンポーネントは、グラフで最も広いバックエンド コンポーネントとして表示されますが、必ずしも最低のバックエンド コンポーネントとは限りません。

注: 障害の原因と考えられる Blame バックエンド コンポーネントは、Introscope グラフでは、最低で最も低速のバックエンド コンポーネントではなく、最も低速で最低のバックエンド コンポーネントです。障害の原因と考えられる Blame バックエンド コンポーネントは、バックエンド時間全体の 25% 以上かかる最低のバックエンドコンポーネントを調べることによって特定されます。

障害の初回応答までの時間

「[初回応答までの時間](#) (P. 44)」を参照してください。

障害のビジネス インパクト

障害のビジネス インパクトは、影響を受けたユーザのインパクト レベル、トランザクションのインパクト レベル、および障害タイプのインパクト レベルに基づいて計算されます。

CA CEM の計算: 障害のビジネス インパクト = ビジネス トランザクションのインパクト レベル * 障害タイプのインパクト レベル * ユーザのインパクト レベル

次も参照: 「[ビジネス トランザクション](#) (P. 60)」、「[障害タイプ](#) (P. 42)」、「[インパクト レベル](#) (P. 31)」

障害パレート グラフ

障害パレート グラフは、最も頻繁に発生する障害を表示します。このグラフは、パレートの法則 (80/20 のルール) にちなんで命名されています。これは、20 パーセントの問題によって 80 パーセントの障害が引き起こされるという意味です。

左側の目盛りは、赤の垂直バーで表される各ビジネス サービスの障害の数を示します。右側の目盛りおよび青の線は、すべての赤いバー (ビジネス サービス、ビジネス トランザクション、障害タイプなどを表します) の障害の累積率を示します。

次も参照: 「[障害](#) (P. 41)」

仕様限界の下限

仕様限界の下限 (LSL) は、特性の最低の許容値 (許容できる最低のトランザクションスループットなど) を定義する数値です。

次も参照: 「[箱ヒゲ図](#) (P. 56)」

仕様限界の上限

仕様限界の上限 (USL) は、特性の最高の許容値 (許容できる最高のトランザクションスループットなど) を定義する数値です。

次も参照: 「[箱ヒゲ図](#) (P. 56)」

初回応答までの時間

初回応答までの時間は、要求の最後（注を参照）の packets からコンポーネントの応答の最初の packets までの経過時間です。

初回応答までの時間は、追跡する障害のタイプによって異なります。

- コンポーネント障害（そのコンポーネントの初回応答までの時間）
- トランザクション障害（トランザクションの識別コンポーネントの初回応答までの時間）
- ビジネス トランザクション障害（識別 トランザクションの識別コンポーネントの初回応答までの時間）

注: この設定は、要求の最初の packets から応答の最初の packets までの経過時間に変更できます。インバウンドネットワーク遅延を確認するためにこの設定が必要な場合は、CA サポートにご連絡ください。

この設定の変更は、変更以降の新規データのみに影響します（すなわち、既存のデータ値は、そのデータが収集されたときに有効であった初回応答設定の時間に基きます）。

次も参照：「[CEM トランザクション時間 \(P. 12\)](#)」、「[論理時間 \(P. 71\)](#)」

スーパードメイン

スーパードメインノードには、Workstation の接続先の Enterprise Manager にレポートするすべてのエージェントのメトリックと、ユーザ定義のドメインとエージェントがすべて含まれています。このノードは、スーパードメインアクセスを持つユーザのみが表示できます。メトリックは、[ホスト|プロセス|エージェント] 階層で編成されます。

スクリプト レコーダ

スクリプト レコーダを使用して、パケット キャプチャ (pcap) ファイルまたは HP LoadRunner VuGen ログ ファイルを トランザクション記録に変換します。

次も参照：「[トランザクション レコーダ \(P. 55\)](#)」

スタートアップ バブル

スタートアップバブルは、リソース要求が多い一時的な期間のことです。このリソース要求は、レポート対象の Introscope メトリックよりも影響を与えることがあります。スタートアップバブル中に、インストルメントアプリケーションの反応がなくなることがあります。

スタートアップバブルは、インストルメントアプリケーション、または同じ環境でリソースを共有している他のコンポーネントに対しても影響を与えることがあります。スタートアップバブルは、起動時に .NET エージェントで発生することがあります。

次も参照：「[.NET エージェント \(P. 21\)](#)」

スタック トレース

スタック トレースは、アプリケーションのサブルーチンに対する呼び出しのレポートです。スレッド ダンプで、各スレッドはスタック トレースに関連付けられています。スタック トレースは、呼び出された全メソッドの、呼び出された順序でのリストです。

「[スレッド ダンプ \(P. 47\)](#)」を参照してください。

ステートフルプラグイン

ステートフルプラグインは、長期的に動作することが想定されているスクリプトです（デーモンなど）。ステートフルプラグインは EPAgent (Environment Performance Agent) が起動すると開始され、そのプラグインの標準出力チャンネルを通じて Introscope にデータを常にフィードバックしながら継続的に動作します。ステートフルプラグインが終了した場合は、EPA によって再起動されます。

次も参照：「[Environmental Performance Agent \(EPAgent、EPA\) \(P. 14\)](#)」、
「[ステートレスプラグイン \(P. 45\)](#)」

ステートレスプラグイン

ステートレスプラグインは、定期的なスケジュールで実行するように設計されており、実行する必要がある周期（実行から次の実行までの遅延時間として指定されます）を設定します。ステートレスプラグインは、一定のデータを収集し、そのデータをその標準出力チャンネルを通じて EPA (Environment Performance Agent) に送信してから停止する、短命のスクリプトとして想定されています。EPA では、同時に複数のステートレスプラグインのインスタンスが実行されていないかを確認するためのチェックを特に行っていないので、プラグイン開発者はステートレスプラグインが必要最小限の時間内で実行し、完了するように設計する必要があります。

次も参照：「[Environmental Performance Agent \(EPAgent、EPA\) \(P. 14\)](#)」、
「[ステートフルプラグイン \(P. 45\)](#)」

ストール

Introscope のストールは通常、メソッドが開始された後、その呼び出し時間のしきい値を超えたメソッドを指します。

次も参照：「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

ストールメソッド、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

スパン

箱ヒゲ図で、スパンは、第 5 パーセンタイルから第 95 パーセンタイルまでの値の違いです。

CA CEM の計算：スパン = 第 95 パーセンタイル値 - 第 5 パーセンタイル値
次も参照：「[箱ヒゲ図](#) (P. 56)」

スプレッド

処理のスプレッドは、そのデータ点が平均や中央値からどの程度の隔たっているかを示します。標準偏差はスプレッドの測定値の 1 つです。

次も参照：「[シグマ](#) (P. 40)」

すべての監視を同期

CA CEM 管理者は、CA CEM と TIM 監視との間の監視通信を有効にするために、**すべての監視を同期**する必要があります。すべての監視を同期すると、トランザクションと障害の定義が CA CEM から有効な TIM にプッシュされます。つまり、監視を同期すると、設定が実運用環境に適用されません。

また、すべての監視を同期すると、CA CEM はトランザクションおよび追跡情報を Introscope Enterprise Manager に送信し、Introscope Enterprise Manager はそれをエージェントに送信します。

同期状態は以下のとおりです。



監視が同期されていない



監視が同期されている

次も参照：「[エージェント](#) (P. 32)」、「[ドメイン構成](#) (P. 50)」、「[Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」、「[TIM \(トランザクションインパクト監視\)](#) (P. 25)」

スループット、トランザクション

「[トランザクションスループット](#) (P. 54)」を参照します。

スレッド

スレッドは、ソフトウェアプログラムを 2 つ以上の同時に動作するタスクに分割する方法です。実行スレッドは他の命令シーケンスとパラレルに動作する一連の命令のシーケンスです。

スレッド、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

スレッドダンプ

Java スレッドダンプ (スレッドダンプ) は、ある時点で JVM 内部で実行されるすべてのスレッドに関する情報を提供します。スレッドダンプは、スレッド名と ID、状態、およびスタックトレース (呼び出された全メソッドのリスト) をスレッドごとに提供します。スレッドダンプは、高い CPU 消費、長いアプリケーション応答時間、応答のないアプリケーションやサーバなど、パフォーマンス上の問題を診断するのに役立ちます。スレッドダンプを使用して、以下を行うことができます。

- ハングしている可能性のあるスレッドを特定する。
- 特定の呼び出しによって、アプリケーションサーバがハングまたはパフォーマンス低下の状態になっていないかどうかを判断する。

次も参照：「[JVM \(P. 19\)](#)」、「[デッドロック \(P. 49\)](#)」、「[スタックトレース \(P. 45\)](#)」

スレッドプール

スレッドプールは、JVM (Java 仮想マシン) はスレッドセットにリソースを割り当てて、ユーザ要求の実行を継続できるようにします。

次も参照：「[Java 仮想マシン \(JVM\) \(P. 19\)](#)」

成功率

成功率は、障害のないトランザクションのパーセンテージを測定したものです。

CA CEM の計算：成功率 = 1 - 障害数/合計数

次も参照：「[成功率 SLA \(P. 47\)](#)」

成功率 SLA

成功率サービス レベル アグリーメント (SLA) は、障害のないトランザクションのレベルを示すパーセンテージです。デフォルトは 95 パーセントです。

次も参照：「[サービス レベル アグリーメント \(SLA\) \(P. 39\)](#)」、「[成功率 \(P. 47\)](#)」

正常トランザクション

正常トランザクションは、障害がゼロのトランザクションです。

次も参照：「[障害トランザクション \(P. 42\)](#)」

セキュリティ ユーザ グループ

「[ユーザ グループ、セキュリティ \(P. 69\)](#)」を参照してください。

セキュリティ領域

*セキュリティ領域*は、ユーザ、セキュリティユーザグループ、およびユーザの認証、許可、または認証と許可を行うアクセスポリシーのソースを規定します。

次も参照：「[EEM \(P. 13\)](#)」

セット

CA CEM における *セット* は複合オブジェクトです（トランザクションのセットなど）。個々の測定値はセット上で計算され、グループで集計されます。

次も参照：「[ビジネス サービス \(P. 59\)](#)」、「[ビジネス トランザクション \(P. 60\)](#)」、「[グループ \(P. 37\)](#)」

関連 SLA

関連 SLA は、ユーザグループ別、ビジネス トランザクション別に設定される多元的な SLA です。一元的な SLA が 1 つのビジネス トランザクション、または 1 つのユーザグループに対してのみ設定されるのに対し、*関連 SLA* は多元的です。

たとえば、特定のユーザグループによって実行される 1 つのビジネス トランザクションに対して *関連 SLA* を設定できます。

ユーザの距離またはネットワークの複雑さに基づいて、応答時間の *関連 SLA* を設定することもできます。たとえば、ローカルユーザに対して予想される応答時間は 2 秒ですが、リモートユーザに対しては 4 秒かかることが予想されます。

次も参照：「[サービス レベル アグリーメント \(SLA\) \(P. 39\)](#)」、「[ユーザグループ \(P. 68\)](#)」

帯域幅、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

ダッシュボード

Introscope ダッシュボードは、アプリケーションメトリックを結合して、ビューに表示し、アプリケーション環境全体を監視します。ダッシュボードには、実運用アプリケーションの問題の切り分け、診断、および解決を迅速に行うことに必要な、パフォーマンス情報の詳細が表示されます。

次も参照：「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

中央値

中央値 はデータ分布を表す 1 つの値です。中央値は分布が正規分布（釣がね型曲線）でない場合に、その分布の 1 つの数値表現として、その平均値を表します。

CA CEM の計算：データセットの中央に位置する点であり、50 パーセントの値がそれ以下、50 パーセントの値がそれ以上という点です。

注：中央値は[平均値 \(P. 63\)](#)とは異なります。

定義、トランザクション

「[トランザクション定義 \(P. 55\)](#)」を参照してください。

ディメンション

「[レポートタイプ \(P. 71\)](#)」を参照してください。

データソース

データソースは、リレーショナルデータベース、オペレーティングシステムサブシステム（プロセステーブルやファイルシステムなど）、別のサードパーティ製品などの実運用システムです。

デッドメトリック

デッドメトリックは、特定の時間内に新しいデータがレポートされていないメトリックです。この時間間隔は **Introscope** で設定できます。次も参照：「[ライブメトリック \(P. 70\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

デッドロック

アプリケーション内のデッドロックは、2つの競合するスレッドが、一方が先に処理を完了するまで他方が待機するために、両方とも処理を完了できない状態になることを指します。スレッドが起動したのちお互いを待機するため、アプリケーションは処理が遅くなるか、ハング状態になります。アプリケーションがいつデッドロック状態になったのかについては、スレッドダンプで確認できます。「[スレッドダンプ \(P. 47\)](#)」を参照してください。

デュアルスタック ネットワーク

デュアルスタック ネットワークでは、IPv4 と IPv6 の両方のサービスおよびアプリケーションがサポートされています。これにより、ホストおよびルータは、IPv4 と IPv6 の両方のプロトコルを実装するよう要求されます。デュアルスタックのアプローチは、既存の IPv4 アーキテクチャへ IPv6 を導入するための一般的な方法です。これにより、IPv6 のサービスおよびアプリケーションがより利用しやすくなるまでの移行期間中に、ネットワークで IPv4 と IPv6 の両方をサポートすることが可能です。次も参照：「[IP アドレス \(P. 18\)](#)」、「[IPv6 \(P. 17\)](#)」

動作障害

動作障害は、トランザクションの動作を分析することによって検出できる障害です。動作障害には、トランザクションの時間、サイズおよびスループット（サイズ/時間）の測定に関する障害が含まれます。

次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[応答障害 \(P. 34\)](#)」

同時性、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

動的 ProbeBuilding

「[動的インスツルメンテーション \(P. 50\)](#)」を参照してください。

動的インスツルメンテーション

Introscope は動的インスツルメンテーション（動的 ProbeBuilding とも呼ばれます）を使用して、マネージドアプリケーション、または Introscope Agent を再起動することなく、新規の PBD や変更された PBD を実装できます。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[インスツルメントされた \(P. 30\)](#)」、「[ProbeBuilder ディレクティブ \(PBD\) \(P. 23\)](#)」

動的プロパティ

構成ファイルが保存されるとすぐに、Introscope 構成ファイル（*IntroscopeAgent.profile* ファイルなど）内の動的プロパティはデプロイされます。この変更を有効にするために、アプリケーションまたはアプリケーションサーバを再起動する必要はありません。

ドメイン

Introscope のドメインは、どのユーザがどの情報を参照できるかを定義するために、エージェントと管理ロジックを分割する方法です。

CA CEM のドメインは、想定されるトランザクション動作、ユーザインパクトとビジネスインパクト、およびシステム全体のデータ保持について、システム全体のデフォルト値と設定を確立するための方法を管理者に提供します。

ユーザグループ、ビジネスサービス、およびトランザクションを作成する場合は、CA CEM ドメインのデフォルト値を継承するか、または特定の値（ユーザに合わせた SLA 設定など）を作成するかを選択できます。

ドメイン構成情報

ドメイン構成情報には、ビジネスサービスおよびトランザクション情報が含まれ、これには以下の2つの目的があります。

-
- 内部 CA CEM ドメイン構成（トランザクションおよび障害定義）。CA CEM と TIM の間で同期され、TIM 監視を指示します。
 - ドメイン構成（トランザクション階層）。CA CEM と Introscope の間で同期され、登録済みのエージェントに渡されます。
- 次も参照：「[Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」、「[すべての監視を同期](#) (P. 46)」

トランザクション

Introscope のトランザクションとは、サービスの呼び出しおよび処理です。完全な処理のサイクルであり、完了はアプリケーションのコンテキストで定義されます。

Web アプリケーションのコンテキストでは、Web ブラウザから送信された URL の呼び出しと処理を指します。Web サービスのコンテキストでは、Web ブラウザから送信された SOAP メッセージの呼び出しと処理を指します。

Introscope では、トランザクションをキャプチャでき、サービスに対して行われた要求についての詳細や、SQL データベースに対する呼び出しなどのサービスの処理にかかわる詳細を含めることができます。

CA CEM のトランザクションとは、通常アプリケーションサーバに対する 1 つの要求を表す、トランザクション コンポーネントのセットです。

トランザクションは、通常、HTML コンポーネントと、その後続くゼロ以上のサブコンポーネント（CSS スタイルシート、JS JavaScript ファイル、GIF/JPG 画像など）で構成されます。各トランザクションには、トランザクションを識別する 1 つのコンポーネントがあります。

1 つのユーザ アクションは結果として 1 つまたは複数のトランザクションになる場合があります、それらのトランザクションはビジネス トランザクションでカプセル化されます。

次も参照：「[トランザクション階層](#) (P. 52)」

トランザクション、障害

「[障害トランザクション](#) (P. 42)」を参照してください。

トランザクション、正常

「[正常トランザクション](#) (P. 47)」を参照してください。

トランザクション、なし

「[トランザクションなし](#) (P. 55)」を参照してください。

トランザクションイベント データベース

Introscope トランザクションイベント データベースには詳細なトランザクションデータが含まれます。これには、トランザクション追跡、ストール、トリガされたイベントから収集されたデータ、スナップショットなどのデータがあります。

トランザクション イベント データベースは通常、トレース ディレクトリで、複数のファイルにまたがって存在します。1日に1つファイルが作成され、このデータは指定した日数だけ保存されます。

次も参照：「[APM データベース \(P. 10\)](#)」、「[ベースラインデータベース \(P. 64\)](#)」、「[SmartStor データベース \(P. 25\)](#)」、「[トランザクション \(P. 51\)](#)」、「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

トランザクション階層

CA APM の情報とメトリックはトランザクション階層に整理されます。この階層は、ビジネス サービスおよびビジネス トランザクションを、カスタマエクスペリエンスを創出する技術的な HTTP 要素にまで変換するための方法です。

CA APM のトランザクション階層は以下のとおりです。

[ビジネス アプリケーション \(P. 59\)](#)は、ビジネス サービスを自動化するソフトウェアプログラムです。すべてのトランザクションは(ビジネス サービス、ビジネス トランザクション、そして最後にトランザクションを介して)、ビジネス アプリケーションに関連付けられます。

例：Siebel

例：Avitek

[ビジネス サービス \(P. 59\)](#)は、ビジネス トランザクションの任意のグループです。

例：Avitek Financial (購入、販売、クエリを含む)

例：Siebel Call Center (ログインに加えて、ほかの Siebel ビジネス トランザクションを含む)

[ビジネス トランザクション \(P. 60\)](#)は、1つのユーザアクションを表すトランザクションのセットです。

例：Buy-related Set (複数の購入関連のトランザクションが含まれる場合があります)

例：Sell-related Set (複数の販売関連のトランザクションが含まれる場合があります)

[トランザクション \(P. 51\)](#)は、通常アプリケーションサーバに対する1つの要求を表す、トランザクション コンポーネントのセットです。

例：Buy (実際の購入トランザクション)

例：Buy Price Query (購入関連のクエリ)

[ビジネス トランザクション コンポーネント \(P. 60\)](#)は、Introscope 内において、ビジネス トランザクションに属する トランザクションと トランザクション コンポーネントの完全セットの代わりとして使用されます。ビジネス トランザクション コンポーネントは、その指定先の識別 トランザクションの識別 トランザクション コンポーネントに対応します。

例：Submit Buy（トランザクションの識別要素およびビジネス トランザクションの識別 トランザクション）

[トランザクション コンポーネント \(P. 53\)](#)は、1組の HTTP 要求/応答ペアを表す低レベルの要素です。

例：Submit Buy（JavaScript の場合もある トランザクションの識別要素）

例：main.css（識別要素ではないが、トランザクションの重要な要素）

[トランザクション パラメータ \(P. 55\)](#)は、階層内の最低レベルの要素です（1組の HTTP 名/値など）。

例：URL Path=/dir/file.html（コンポーネントの識別要素）

例：Cookie=JSESSIONID

トランザクション コンポーネント

CA CEM の トランザクション コンポーネントは、HTML コンポーネントまたはサブコンポーネントを構成する 1組の HTTP 要求/応答を表します。トランザクション内の最初の トランザクション コンポーネントを識別コンポーネントと呼びます。

次も参照：「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

トランザクション サイズ

トランザクション サイズは、トランザクションの HTTP トラフィックのサイズ（バイト）です。このサイズには、HTTP の要求と応答の両方だけでなく、HTTP のヘッダが含まれていますが、イーサネット、IP および TCP ヘッダは含まれていません。

トランザクション 時間

「[CEM トランザクション 時間 \(P. 12\)](#)」を参照してください。

トランザクション 時間 SLA

トランザクション 時間 サービス レベル アグリーメント (SLA) は、トランザクションの経過時間の合計（秒）です。デフォルトは 8 秒です。

次も参照：「[CEM トランザクション 時間 \(P. 12\)](#)」、「[サービス レベル アグリーメント \(SLA\) \(P. 39\)](#)」

トランザクション シグネチャ

トランザクション シグネチャは、トランザクション レコーダの出力で、個別の トランザクションに関する情報を含みます。

シグネチャが作成されたら、CA CEM 管理者は、そのトランザクションシグネチャを分析、調整して、一般化されたトランザクション定義にプロモートできます。

次も参照：「[トランザクション \(P. 51\)](#)」、「[トランザクション定義 \(P. 55\)](#)」、「[トランザクションレコーダ \(P. 55\)](#)」

トランザクションスループット

CA CEM のトランザクションスループットは、効率性を測る尺度として使用されます。特に、時間とサイズの観点で大きく変化するトランザクションで使用されます。スループットが高ければ、より効率的なトランザクションであることを意味します。

CA CEM の計算：トランザクションスループット = トランザクションサイズ / トランザクション時間

トランザクション追跡

トランザクション追跡は Introscope Transaction Tracer の出力です。追跡には、トランザクション中、およびそれに関連する継続時間にコールされたコンポーネントのリストが含まれます。

次も参照：「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

トランザクション追跡継続時間

トランザクション追跡継続時間は、トランザクション追跡セッションの実行時間です。トランザクション追跡セッション最大継続時間は制限時間です。デフォルト値は 30 分です。

次も参照：「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

トランザクション追跡時間しきい値

トランザクション追跡時間しきい値は、トランザクションの実行時間制限です。トランザクション追跡が実行されている場合、しきい値の時間内に完了しないトランザクションがすべて追跡されます。

トランザクション追跡時間しきい値は、低速トランザクション障害規格に基づくパーセンテージ値です。たとえば、低速トランザクション障害規格が 8.00 秒に設定され、トランザクション追跡時間しきい値が 25 パーセントに設定されている場合、障害の原因と考えられる Blame コンポーネント（論理時間）を含む、2.00 秒より長くかかるトランザクションがすべて追跡されます。

次も参照：「[論理時間 \(P. 71\)](#)」、「[障害の原因と考えられる Blame コンポーネント \(P. 42\)](#)」、「[Transaction Tracer \(P. 26\)](#)」

トランザクション定義

トランザクション定義とは、トランザクションがネットワークを通過するときにトランザクションを一意に識別するためにTIMが使用する情報です。CA CEMレコーダを使用するか、CEMのコンソールを使用して手動で、トランザクション定義を作成できます。

次も参照：「[トランザクション \(P. 51\)](#)」、「[トランザクションレコーダ \(P. 55\)](#)」、「[トランザクションシグネチャ \(P. 53\)](#)」

トランザクションなし

ビジネス トランザクションのキャッシュ不可トランザクションがない場合、トランザクションなし障害が生成されます。これは、設定可能な想定期間（デフォルトは10秒）内にこのトランザクションの要求が観測されなかったことを意味します。

次も参照：「[キャッシュ可能 \(P. 36\)](#)」、「[コンポーネントなし \(P. 39\)](#)」、「[キャッシュ不可 \(P. 36\)](#)」

トランザクションパラメータ

トランザクションパラメータは、1組のHTTP名/値です。タイプ、名前、およびパターンから構成されます。例として、URL、Query、Post、Cookieがあります（URL Host=www.company.comなど）。

トランザクションパラメータの組み合わせを使用して、CA CEM管理者は、必要なトランザクションコンポーネントの存在を識別および検証できます。

次も参照：「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

トランザクション量

トランザクション量は、指定された期間のすべてのトランザクションの合計サイズです。

トランザクションレコーダ

トランザクションレコーダを使用して、さまざまな方法によりトランザクションの詳細を記録します。レコーダには、レコーダとスクリプトレコーダの2つのタイプがあります。

次も参照：「[レコーダ \(P. 71\)](#)」、「[スクリプトレコーダ \(P. 44\)](#)」

ネットワーク タップ

ネットワーク タップは、インフラストラクチャの配線を直接利用するハードウェアデバイスで、パケットのコピーを作成して1つ以上の宛先に転送します。

次も参照：「[ミラーポート \(P. 65\)](#)」

ノード

ノードは、特定のメトリック情報が収集され、Introscope Investigator のツリービューで表示される場所です（バックエンドノード、CPU の使用率ノードなど）。ノードを展開するとより詳細なメトリック情報を表示して探することができます。

次も参照：「[Investigator、Workstation \(P. 17\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」、「[Workstation \(P. 27\)](#)」

パーセンタイル値

分布のパーセンタイル値は、分布のパーセンテージが、パーセンタイル値以下である範囲の数値です。たとえば、第 25 パーセンタイル（下位四分位点とも呼ばれる）は、最大でもデータ値の 25% がここに該当する範囲です。

別の例として、応答時間のグラフの第 95 パーセンタイルの数値は、この期間内の 95% のトランザクションが、このレベルまたはそれ以下の応答時間であることを意味します。

次も参照：「[箱ヒゲ図 \(P. 56\)](#)」

ハートビート

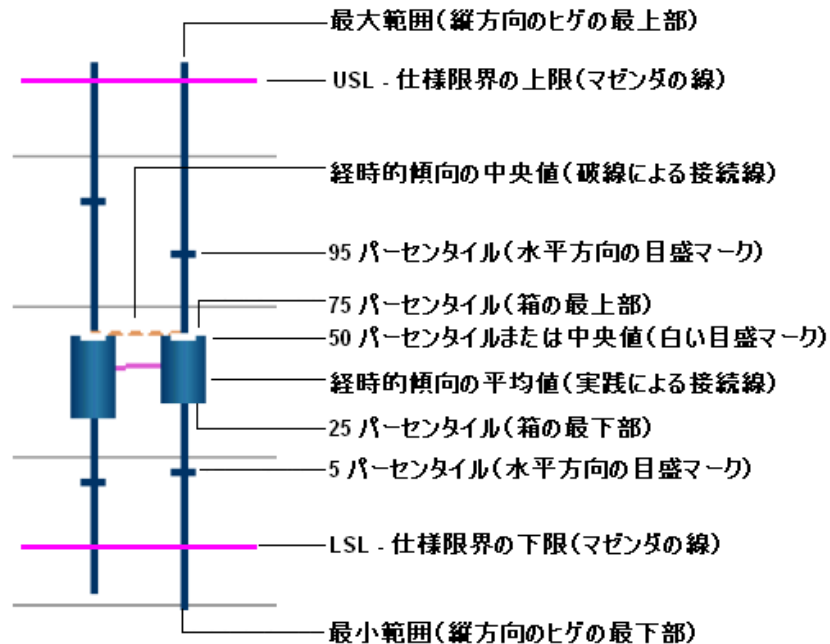
ハートビートはメトリックをチェックする時間間隔で、通常は秒単位です。

箱ヒゲ図

箱ヒゲ図は、データポイントの分布を表します。ヒゲは最大と最小の範囲を表します。箱は第 75 パーセンタイルと第 25 パーセンタイルを表します。白い目盛マークは第 50 パーセンタイル（中央値）を表します。チェックマークは第 95 および第 5 パーセンタイルを表します。

箱の間の接続線は長期間にわたる傾向を表します。点線（オレンジの接続線）は中央の傾向線で、実線（マゼンタの接続線）は平均の傾向線です。

水平線は、仕様限界の上限および下限（USL および LSL）を示します。図の下のデータテーブルは数（トランザクションの数）、スパン、平均、およびデータポイントを表します。



次も参照：「[平均値](#) (P. 63)」、「[仕様限界の下限](#) (P. 43)」、「[中央値](#) (P. 48)」、「[パーセンタイル値](#) (P. 56)」、「[範囲](#) (P. 58)」、「[スパン](#) (P. 46)」、「[仕様限界の上限](#) (P. 43)」

パターン

「[パラメータ名パターン](#) (P. 58)」または「[トランザクションレコーダ](#) (P. 55)」を参照してください。

バックエンド

Introscope バックエンドは外部システムで、Web アプリケーションの処理の一部を実行します。たとえばバックエンドとして、データベース、メールサーバ、トランザクション処理システム、またはメッセージングシステムなどがあります。

Introscope では、データベースはその名前を使用してバックエンドシステムとして自動的に識別されます。他の外部システムの場合、Introscope はアプリケーションのソケット アクティビティを分析し、そのアプリケーションが通信に使用している IP アドレスとポート番号に基づいて、バックエンドを命名します。

次も参照：「[Enterprise JavaBeans \(EJB\)](#) (P. 14)」、「[フロントエンド](#) (P. 63)」

バックエンド時間

バックエンド時間は、バックエンドシステムの障害の原因と考えられる **Blame** コンポーネント（データベース コンポーネントなど）の実行にかかった時間の測定値です。Introscope によってレポートされます。

CA CEM では、バックエンドを表すコンポーネントセットを構成できます。デフォルトでは、CA CEM は Introscope 定義のバックエンドに依存しています。Introscope バックエンド時間は、バックエンドを呼び出す Java コンポーネントから測定されます。したがって、この時間には、バックエンド処理時間と、バックエンドとの通信に費やされたすべてのネットワーク時間が含まれます。

次も参照：「[バックエンド \(P. 57\)](#)」、「[障害の原因と考えられる Blame コンポーネント \(P. 42\)](#)」

パフォーマンス メトリック

CA CEM のパフォーマンス メトリックは、成功率、合計、正常、および障害の観点から見た測定値です。

パフォーマンス メトリックは、IT プロフェッショナルによく知られており、トランザクションおよびビジネス トランザクションについて計算されます。パフォーマンス メトリックでは、平均で分布を表します。

次も参照：「[障害トランザクション \(P. 42\)](#)」、「[正常トランザクション \(P. 47\)](#)」、「[成功率 \(P. 47\)](#)」、「[合計ビジネス トランザクション \(P. 38\)](#)」

パラメータ、トランザクション

「[トランザクションパラメータ \(P. 55\)](#)」を参照してください。

パラメータ名パターン

CA CEM には、デフォルト設定を持つ複数のプライベート パラメータがあります。パラメータ名パターンの例として、pin、*ssn、*password、*passcode などがあります（アスタリスク「*」はワイルドカードです）。

次も参照：「[プライベートパラメータ \(P. 62\)](#)」

パレート図

「[障害パレート図 \(P. 43\)](#)」を参照してください。

範囲

箱ヒゲ図では、**範囲**は最大値と最小値の間隔です。

次も参照：「[箱ヒゲ図 \(P. 56\)](#)」

ビジネス アプリケーション

ビジネス アプリケーションは、ビジネス サービスを自動化するソフトウェアプログラムです。CA APM は、Web アプリケーションによって生成される Web トランザクションを監視します。ビジネス アプリケーションはトランザクション階層の一部です。






CA CEM ビジネス アプリケーションは、アプリケーション固有の構成設定を保持するオブジェクトの名前です。Web アプリケーションによって行われる以下の処理の方法を定義できます。

- ユーザを認証する (認証タイプ、ログイン名のパラメータ)
- セッションを維持する (セッション ID のパラメータ)
- トランザクションを識別する (アプリケーションタイプ)
- さまざまな HTTP パラメータの大文字と小文字を区別する (URL パスおよびログイン名)
- ユーザ統計を処理する (電子商取引またはエンタープライズ)
- 文字エンコードを処理する (マルチバイト)

次も参照: 「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」、 「[Web アプリケーション \(P. 26\)](#)」

ビジネス インパクト

ビジネス インパクトは、障害またはインシデントがビジネスにもたらす影響を測定したものです。CA CEM 製品の [主要インパクト要因] および [インシデント] ページには、ビジネス インパクトが表示されます。

 クリティカル  深刻  中程度  低  インパクトなし

次も参照: 「[障害のビジネス インパクト \(P. 43\)](#)」、 「[インパクト レベル \(P. 31\)](#)」、 「[インシデントのビジネス インパクト \(P. 30\)](#)」

ビジネス インパクト、インシデント

「[インシデントのビジネス インパクト \(P. 30\)](#)」を参照してください。

ビジネス インパクト、障害

「[障害のビジネス インパクト \(P. 43\)](#)」を参照してください。

ビジネス サービス

CA CEM のビジネス サービスは、ビジネス トランザクションのグループです。測定は、トランザクション階層内のこのレベルに集約されます。

SOA パフォーマンス管理で、ビジネス サービスは、Enterprise Service Bus のバックエンドシステムに対して送信要求を行います。

次も参照：「[グループ \(P. 37\)](#)」、「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

ビジネス トランザクション

CA CEM のビジネス トランザクションは1つ以上のトランザクションのセットです。測定値は、トランザクション階層内のこのレベルで収集されます。各ビジネス トランザクションには、1つの識別トランザクションがあります。

注: これは複雑なトランザクション (Siebel や SAP など) でのみ使用されます。

次も参照：「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」、「[セット \(P. 48\)](#)」

ビジネス トランザクションあたりの IT 価値

「[IT 価値 \(P. 18\)](#)」を参照してください。

ビジネス トランザクション コンポーネント

Introscope のビジネス トランザクション コンポーネントは、ビジネス トランザクションの稼働状況を追跡するためにインストルメントおよび監視される、1組の HTTP 要求/応答を表します。ビジネス トランザクション コンポーネントは、アプリケーション問題切り分けマップの稼働状況メトリックのソースです。

ビジネス トランザクション コンポーネントは、トランザクションの1つの識別コンポーネントです。また、トランザクションは、ビジネス トランザクションの1つの識別トランザクションです。

ビジネス トランザクション コンポーネントは、以下の両方のコンポーネントに似ています。

- トランザクション (ビジネス トランザクションの1つの識別トランザクションであるため)
- トランザクション コンポーネント (1つのトランザクションの1つの識別コンポーネントであるため)

次も参照：「[トランザクション \(P. 51\)](#)」、「[トランザクション コンポーネント \(P. 53\)](#)」、「[トランザクション階層 \(P. 52\)](#)」

ビジネス付加価値

ビジネス付加価値は、レポート期間について正常に完了した、収益を生むすべてのトランザクションのトランザクションごとのビジネス価値の合計です。収益を生むトランザクションには、トランザクションごとの価値を金額で指定して割り当てることができます。

CA CEM の計算：ビジネス付加価値 = 収益を生むすべてのトランザクションの合計ビジネス価値

CA CEM の計算で使用：合計ビジネス価値 = Net IT 付加価値 + ビジネス付加価値

次も参照：「[Net IT 付加価値 \(P. 22\)](#)」、「[合計ビジネス価値 \(P. 38\)](#)」

ビジネス プロセス

5.0 より前の CA CEM 製品リリースで、ビジネス サービスは *ビジネス プロセス* と呼ばれていました。

次も参照：「[ビジネス サービス \(P. 59\)](#)」

ヒストグラム

ヒストグラムはデータ分布の詳細なモデルで、何千ものデータ ポイントを含めることができます。ヒストグラムを使用して、プロセス データ セットの分布をグラフィカルに要約し、表示します。

非表示のプロパティ

構成ファイル内の *非表示プロパティ* (*IntroscopeAgent.properties* ファイルや *IntroscopeEnterpriseManager.properties* ファイルなど)。これらのプロパティは、構成ファイルにプロパティを追加しない限り利用できません。

ヒューリスティック メトリック

Introscope ヒューリスティック メトリックを使用して、ステータスを評価し、レポートします。これは整数ですが、この整数はステータスを表すシンボルであり、測定値を示すものではありません。ヒューリスティック メトリックの値は、これらのメトリックのベースラインに対する現在のメトリックを評価することによって決定されます。

固定のしきい値ではなく、ヒューリスティック メトリックの観点からアラートを定義することで、キー パフォーマンス インジケータの正常値を判断する作業は Introscope の管理者から Introscope 自体へと移行します。

次も参照：「[ベースライン \(P. 63\)](#)」、「[データベース データベース \(P. 64\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

品質メトリック

CA CEM の *品質メトリック* は、障害、機会、収率、シグマ、および DPMO の観点から見た測定値です。

品質メトリックは、IT 組織の内外を問わず、品質プロフェッショナルによく知られており、主に機会について計算されます。品質メトリックでは、中央値で分布を表します。

次も参照：「[障害 \(P. 41\)](#)」、「[100 万機会あたりの障害数 \(DPMO\) \(P. 9\)](#)」、「[機会 \(P. 35\)](#)」、「[シグマ \(P. 40\)](#)」、「[収率 \(P. 34\)](#)」

フェールオーバ

「[MOM フェールオーバ \(P. 21\)](#)」を参照してください。

不完全応答

不完全応答は、設定可能な想定期間（デフォルトは 60 秒）内に特定のコンポーネントに対する完全な応答が観測されなかったことを意味します。
次も参照：「[応答なし \(P. 34\)](#)」

プライベートパラメータ

プライベートパラメータは、CA CEM 管理者がセキュリティ上またはプライバシー上の理由でプライベートとして指定するトランザクションパラメータです。プライベートに指定されたパラメータの値は、トランザクション内ではアスタリスクでマスクされます。

CA CEM には、pin、*ssn、*password、*passcode など、デフォルト設定を持つ複数のプライベートパラメータがあります（アスタリスク「*」はワイルドカード文字です）。CA CEM 管理者は、プライベートパラメータのリストに追加することができます。

次も参照：「[トランザクションパラメータ \(P. 55\)](#)」

プラグイン

「[拡張機能 \(P. 35\)](#)」を参照してください。

プラットフォーム

プラットフォームは、ソフトウェアを実行でき、かつ種々のアプリケーションで使用できるフレームワークと一連の機能からなります。たとえば、J2EE（Java 2 Platform Enterprise Edition）はプラットフォームです。

次も参照：「[Java プラットフォーム \(P. 20\)](#)」、「[.NET Framework \(P. 22\)](#)」

プローブ

プローブは、アプリケーションのビジネスロジックを変更せずに、Web アプリケーションに関する特定の情報を測定します。エージェントは、インストールされた Web アプリケーションと同じコンピュータにインストールされます。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[インストールされた \(P. 30\)](#)」、
「[ProbeBuilder \(P. 23\)](#)」

プロモーション、トランザクション

「[トランザクションシグネチャ \(P. 53\)](#)」を参照してください。

フロントエンド

フロントエンドは、受信したトランザクションを最初に処理するアプリケーションのコンポーネントです。最も一般的な J2EE のアプリケーションでは、サーブレットや JSP がこれにあたります。Java インスタンスによっては EJB やその他のコンポーネントのこともあります。Introscope はサーブレットと JSP をフロントエンドとして自動認識しますが、その他のコンポーネントの場合、自動的には認識しません。コンポーネントを明示的にフロントエンドとしてマークするには、FrontendMarker Tracer を使用します。

次も参照：「[バックエンド](#) (P. 57)」、「[バックエンド時間](#) (P. 58)」、「[Enterprise JavaBeans \(EJB\)](#) (P. 14)」、「[Java Server Page \(JSP\)](#) (P. 20)」、「[サーブレット](#) (P. 39)」

分布図

「[箱ヒゲ図](#) (P. 56)」を参照してください。

平均

「[平均値](#) (P. 63)」を参照してください。

平均値

平均値は、データの分布を表すために使用される単一の数値です。分布には数千ものデータポイントが含まれることができます。このメトリックはパフォーマンスの計算に使用されます。

CA CEM の計算：平均値 = 値の合計 / 値の個数

注：平均値は[中央値](#) (P. 48)とは異なります。

ベースライン

ベースラインは、比較または制御として使用されるデータの初期セットです。Introscope および CA CEM は、ベースラインアルゴリズムを使用して Web アプリケーションを監視します。

Introscope では、現在のメトリックをそのメトリックのベースラインを基準に評価して、[概要] タブのアラートインジケータの色を決定します。エージェントセントリックツリーでエージェントノードを選択すると、これらのインジケータに関連するメトリック値がヒューリスティックノードに表示されます。

Introscope のベースラインアルゴリズムは、特定のメトリックについて、次の予想値と、その値の予想偏差を調べます。実際の偏差がその予想偏差を上回っている場合 (2x)、または著しく超過している場合 (4x)、ベースラインは中程度の違反または深刻な違反を示し、関連付けられているヒューリスティックが黄色または赤に変わります。

内部では、ベースラインは、時系列の傾きを評価し、その傾きの予想値を決定します。新しいデータは、古いデータよりも重み付けされます。CA CEM では、動作障害に関する 28 日分の履歴データに基づいて障害指定ベースラインを計算します。十分なデータが収集されたら、障害指定値を変更するか、ベースラインを設定するかのいずれかを選択できます。たとえば、低速障害指定のデフォルト値は 5 秒です。実際のトランザクション データを収集してから低速障害のベースラインを設定する場合は、デフォルトの 5 秒から、示唆された障害指定値 (7.2 秒など) に変更されます。

次も参照: 「[ベースラインデータベース \(P. 64\)](#)」、 「[ヒューリスティックメトリック \(P. 61\)](#)」、 「[規格 \(P. 36\)](#)」

ベースラインデータベース

Introscope ベースラインデータベースには、システムの各メトリックについて最も一般的な正常範囲の値が含まれます。Introscope ヒューリスティック ロジックでは、これらの値を使用して、管理者の注意を喚起する必要があるような異常な状態や、トランザクション追跡のような特別なイベント処理があるかどうかを調べます。

次も参照: 「[APM データベース \(P. 10\)](#)」、 「[ベースライン \(P. 63\)](#)」、 「[ヒューリスティックメトリック \(P. 61\)](#)」、 「[SmartStor データベース \(P. 25\)](#)」、 「[トランザクションイベントデータベース \(P. 52\)](#)」

ホット設定

「[動的プロパティ \(P. 50\)](#)」を参照してください。

ホットデプロイ

「[動的プロパティ \(P. 50\)](#)」を参照してください。

保留中のインシデント

保留中のインシデントとは、1 つ以上の障害を持ちながら、インシデント生成ルールおよびインパクトしきい値がまだ満たされていない状態を指します。

CA CEM 管理者は、インシデントの状態が「保留中」から「オープン」や「エイジアウト」に変化するタイミングを確立するシステム全体の設定と値を提供します。たとえば、ある期間内の障害の数が特定のしきい値を超える場合、またはその障害のビジネス インパクトの合計が特定のしきい値を超える場合、インシデントの状態は変化します。

次も参照: 「[インパクトしきい値 \(P. 30\)](#)」、 「[インシデントの状態 \(P. 30\)](#)」

マネージドアプリケーション

インストールされた web アプリケーションが動作しているとき、これをマネージドアプリケーションと呼びます。

次も参照：「[インスツルメント \(P. 30\)](#)」

マルチバイト

「[文字エンコード \(P. 67\)](#)」を参照してください。

ミラーポート

ミラーポートは、ネットワークルータとスイッチのソフトウェア機能です。

次も参照：「[ネットワーク タップ \(P. 55\)](#)」

メトリック、Introscope

Introscope メトリックは、アプリケーションパフォーマンスの測定値です。*Introscope* のメトリックのタイプには次のものがあります。

- 帯域幅：JVM レベルや CLR レベルのファイルとソケットのアクティビティ
- オカランス：開始され、まだ終了していないメソッド呼び出しの数
- カウント：現在までのメソッド呼び出しの数
- 例外 -- キャプチャ例外
- メモリ：ガベージコレクションと関連した、JVM または CLR に割り当てられた使用中のメモリ
- レート：秒あたり、またはある時間間隔あたりのメソッド実行数
- 応答時間：メソッドの平均実行時間（ミリ秒）
- ストールメソッド：開始され、その呼び出し時間のしきい値を超えたメソッド
- システム ログ：システムアウトとシステムエラー出力の監視
- スレッド：インスツルメントされたスレッド数

次も参照：「[メトリック クランプ \(P. 66\)](#)」、「[メトリック急増 \(P. 66\)](#)」、「[メトリック スロットル \(P. 66\)](#)」

メトリック急増

メトリック急増は、新しいメトリックが短期間に多数作成されたときに発生します。誤設定されたメトリック定義が原因で、メトリック値が変化するとメトリックメタデータが変更され、新しいメトリックとして表示される可能性があります。たとえば、SQLメトリック内の可変文字列などです。一連の新しいエージェントに対してエージェント接続プロパティを誤設定すると、何千もの新しいメトリックによって Enterprise Manager が過負荷状態になる可能性があります。これらの状況により、パフォーマンスが低下する可能性があります。

次も参照：「[メトリック リーク \(P. 66\)](#)」、「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[クランプ \(P. 37\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

メトリック クランプ

メトリック クランプは、エージェントと Enterprise Manager 上のメトリック数の制限、つまりクランプ(留め金)です。これにより、Enterprise Manager 上に報告されるメトリック数の急増を防止します。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[クランプ \(P. 37\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

メトリック グループ[めとりっく ぐるーぷ]

メトリック グループは以下の情報を保存する管理モジュールオブジェクトです。

- エージェント一致パターン-- エージェント名の一部またはすべてを含むデータを指定することにより、メトリックへの入力をフィルタする Perl 5 の正規表現。
- メトリック一致パターン-- リソース（メトリックに至るまでの一連のフォルダ）およびメトリックを指定する Perl 5 の正規表現。
- メトリック グループが属する管理モジュール。

メトリック スロットル

メトリック スロットルにより、メトリックが過剰に出力されたときにそのエージェントを停止できます。

次も参照：「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[クランプ \(P. 37\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

メトリック リーク

メトリック リークは、Introscope の誤設定により、限定された時間のメトリックをエージェントがレポートする場合に発生します。これにより、関連するメトリック データのないメトリックメタデータが徐々に作成される結果となります。

次も参照：「[メトリック急増 \(P. 66\)](#)」、「[エージェント \(P. 32\)](#)」、「[クラッシュ \(P. 37\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

メモリ、メトリック

「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」を参照してください。

メモリ リーク

アプリケーションによって一定の期間にわたって割り当てられるメモリ量が増え続け、一切解放されない場合（または一部しか解放されない場合）、メモリ リークが発生します。たとえば、アプリケーションが繰り返しオブジェクトをインスタント化しているのに、それらへの参照を削除しない場合、つまり、ガベージコレクションによってそれらのオブジェクトが削除されない場合などです。

次も参照：「[ガベージコレクション \(P. 35\)](#)」、「[CA APM LeakHunter \(P. 20\)](#)」

文字エンコード

CA CEM は、トランザクションデータと定義名で 16 ビット文字をサポートしています。これにより、中国語、日本語、および韓国語の文字セットがサポートされます。サポートされている文字エンコードは以下のとおりです。

- **ISO-8859-1** - CA CEM のデフォルトの文字エンコードで、ISO で定義されている標準。8 ビットのシングルバイト コード グラフィック文字セット - ラテン文字第 1 部 (Latin-1 と呼ばれる) は通常、西ヨーロッパ言語で使用することを意図しており、HTTP および MIME テキストのデフォルトです。
- **UTF-8** - Unicode Transformation Format 8 ビット文字セットは Unicode 用の可変長文字エンコードです。これは Unicode 標準の任意の文字を表すことができ、ASCII と下位互換性があります。UNIX/Linux での Unicode の標準であり、マルチリンガル Web サイトでよく使用されます。
- **EUC-JP** - 可変幅のエンコーディングで、3 つの日本語文字セット標準 (JIS X 0208、JIS X 0212 および JIS X 0201) の要素を表すために使用されます。マルチバイトの文字エンコーディング システムである Extended UNIX Code (EUC) をベースにしており、UNIX/Linux のための日本語文字エンコードです。
- **Shift-JIS** - 日本の企業である ASCII が Microsoft と協力して独自に開発した日本語向けの文字エンコードで、JIS X 0208 (SJIS、またはその MIME 名 Shift_JIS と呼ばれる) として標準化されています。Microsoft Windows 用の日本語文字エンコード。

-
- **ISO-2022-JP** - ISO-2022 標準 (JIS とも呼ばれる) に基づいており、広く使用されている日本語の文字エンコードです。ASCII など、1 文字のエンコードの中に複数の文字セットを含む技術を採用しており、エスケープシーケンスを使用して JIS X 0201-1976 (1 バイト/1 文字)、JIS X 0208-1978 (2 バイト/1 文字)、JIS X 0208-1983 (2 バイト/1 文字)、ダブルバイトコード漢字(日本語で使用される漢字)に切り替えます。
 - **Windows-31J** - NEC 特殊文字および IBM 拡張に対応する、Microsoft Windows による Shift-JIS の拡張文字コード。
 - **GB2312** - 中国語(簡体字)文字に使用される中国の公式の文字エンコードの登録済みの名前。GB は Guojia Biaozhun の省略で、中国語(また GB 2312)の国家規格を意味します。簡体中国語。
 - **Big5** - 中国語(繁体字)文字(また Big-5)用に台湾、香港およびマカオで使用される文字エンコードの方法。繁体中国語。
 - **EUC-KR** - コード化された 2 つの文字セット (KS X 1001 と KS X 1003) を使用して韓国のテキストを表す可変幅のエンコード。Extended UNIX Code (EUC) をベースとしており、マルチバイトの文字エンコードシステム。韓国。

問題の切り分け

*問題の切り分け*は、ある問題に関連する情報を収集し、重大度を決定し、それを最も迅速に解決できる人員に割り当てるプロセスです。この段階の問題分析に対処する人を切り分け担当と呼びます。

次も参照：「[WebView \(P. 26\)](#)」、「[Workstation \(P. 27\)](#)」

ユーザグループ

CA CEM では、ユーザグループを使用すると、各ユーザの設定を個別に構成する代わりに、(監視対象)ユーザの集合の設定を構成できます。ユーザグループは、問題が発生している可能性がある(監視対象)ユーザのグループを簡単に識別できるように定義できます。ユーザは 1 つのユーザグループのみに属します。

新しい(監視対象)ユーザグループは、手動で作成できます。また、ユーザをユーザグループに手動で移動することができます。CA CEM には、ユーザグループを自動的に作成する方法も用意されています。

(監視対象)ユーザグループには複数のタイプがあります。

-
- 要求属性ユーザグループ -- HTTP 要求内のコンテンツによってグループ化されたユーザ群。
 - サブネットユーザグループ -- ユーザサブネット別に新規ユーザの自動的な割り当てが行われるグループ。
 - 手動作成のユーザグループ -- 新しいユーザグループ(または別のユーザグループ)からこのタイプのユーザグループへのユーザの移動は手動で行う必要があります。
 - 新規ユーザ -- 自動ユーザグループ生成方法が選択されていない場合、すべての新規ユーザログインは新しいユーザグループに割り当てられます。
 - 未指定ユーザ -- 電子商取引トランザクションはすべて未指定ユーザグループに割り当てられます。また、ユーザがログインする前に発生したエンタープライズトランザクションも未指定ユーザグループに割り当てられます。

次も参照：「[関連 SLA \(P. 48\)](#)」、[「ユーザ処理タイプ \(P. 69\)」](#)

ユーザグループ、セキュリティ

CA CEM のセキュリティユーザグループは、CA APM ソフトウェアおよび CEM コンソールユーザインターフェース機能のユーザが利用できるセキュリティアクセスおよび権限を定義します。デフォルトの CA CEM のセキュリティユーザグループは以下のとおりです。

- 管理者 -- Introscope と CA CEM へのアクセス権を持ち、Introscope 管理者と CEM システム管理者の権限が付与されます。
- CEM システム管理者 -- CA CEM のシステム管理機能をすべて管理します。
- CEM 構成管理者 -- CA CEM の一般的な構成設定を管理します。
- CEM アナリスト -- CEM のレポートとビューのみへのアクセス権を持ちます。
- CEM インシデントアナリスト -- 障害に関する HTTP 情報を含む、CA CEM のレポートとビューへのアクセス権を持ちます。

次も参照：「[CEM \(P. 13\)](#)」

ユーザ処理タイプ

CA CEM のユーザ処理タイプは、TIM によって収集されてデータベースに保存される、ユーザベース統計の量を決定します。エンタープライズと電子商取引の 2 つのユーザ処理タイプがあります。

エンタープライズ ビジネス アプリケーションの場合、ユーザごとの詳細な統計が、時間単位およびトランザクション定義単位で保存されます。このユーザ処理タイプでは、個々のユーザに関する最も詳細な情報が提供されます。しかし、ビジネス アプリケーションのユーザが多い場合はディスクの使用量が大幅に増加します。



電子商取引ビジネス アプリケーションの場合、トランザクションタイプごとの詳細な統計が、時間単位およびトランザクション定義単位で保存されます。この設定では、電子商取引ビジネス アプリケーションの処理量が大きい場合に最大のスケーラビリティが提供されます。このユーザ処理タイプでは、ディスク容量を大幅に節約できます。

要求ベースのトランザクション

要求ベースのトランザクションは、CA CEM が HTTP 要求パラメータに基づいて識別するビジネス トランザクションです。応答ベースのトランザクションは、要求ベースのトランザクションから拡張されます。次も参照：「[応答ベースのトランザクション \(P. 34\)](#)」

ライブメトリック

ライブメトリックには、特定のエージェントからのデータがアクティブにレポートされます。次も参照：「[デッドメトリック \(P. 49\)](#)」、「[メトリック、Introscope \(P. 65\)](#)」

リスナポート

リスナポートは、コネクションファクトリ、宛先、およびデプロイされたメッセージ駆動型 Bean 間の関連性の管理を簡易化するために使用します。

リソース

Java プログラミング言語では、リソースはアプリケーションのコードからアクセスできる 1 つのデータ群を指します。web アプリケーションはそのリソースに URL (Uniform Resource Locators) を通じて web リソースのようにアクセスできますが、リソースは通常 web アプリケーションの JAR ファイル内にあります。

1 つのエージェントによるメトリック情報のすべての記録は、リソースに整理されます。

リソースには下位リソースが含まれ、その下にメトリックがグループ化される場合もあります。

次も参照：「[Workstation \(P. 27\)](#)」

量、トランザクション

「[トランザクション量](#) (P. 55)」を参照してください。

領域

「[セキュリティ領域](#) (P. 48)」を参照してください。

ルールセット

ルールセットは、CA CEM トランザクションを識別するパラメータ名/値の正規表現パターンです。ルールセットは Introscope トランザクション追跡を可能にするために使用されます。

Enterprise Manager から受信する、解析済みドメイン構成情報 (CA CEM ビジネス トランザクション定義) に基づき、各エージェント拡張機能が独自のルールセットを作成します。

次も参照: 「[ドメイン構成](#) (P. 50)」、 「[Enterprise Manager \(EM\)](#) (P. 14)」

例外、メトリック

「[メトリック、Introscope](#) (P. 65)」を参照してください。

レート、メトリック

「[メトリック、Introscope](#) (P. 65)」を参照してください。

レコーダ

レコーダは、特定のクライアント コンピュータ (IP アドレス) からすべての Web ブラウザ アクティビティを追跡し、監視されるトランザクションの例を特定するために使用されます。生成されたトランザクションの記録は、トランザクションの記録および境界ルールの作成プロセスを簡単にするために、トランザクションの定義プロセスで使用されます。

次も参照: 「[トランザクションレコーダ](#) (P. 55)」、 「[トランザクションシングルネチャ](#) (P. 53)」

レコーダ、トランザクション

「[トランザクションレコーダ](#) (P. 55)」を参照してください。

レポートタイプ

CA CEM のグラフ分析において、レポートタイプには、値の比較 (障害タイプの比較など) または時系列 (時間単位でトランザクションを比較) のいずれかが表示されます。

論理時間

論理時間は、障害の原因と考えられる Blame コンポーネント プログラムコードの実行にかかった時間の測定値です。Introscope によってレポートされます。

次も参照: 「[障害の原因と考えられる Blame コンポーネント](#) (P. 42)」
